

**「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(小学校, 中学校)**

**第3編 単元(題材)ごとの学習評価について(事例)**

**【案】**

**第1章 「内容のまとめりごとの評価規準」の考え方を踏まえた評価規準の作成**

- 1 本編事例における学習評価の進め方について
- 2 単元の評価規準の作成のポイント

**第2章 学習評価に関する事例について**

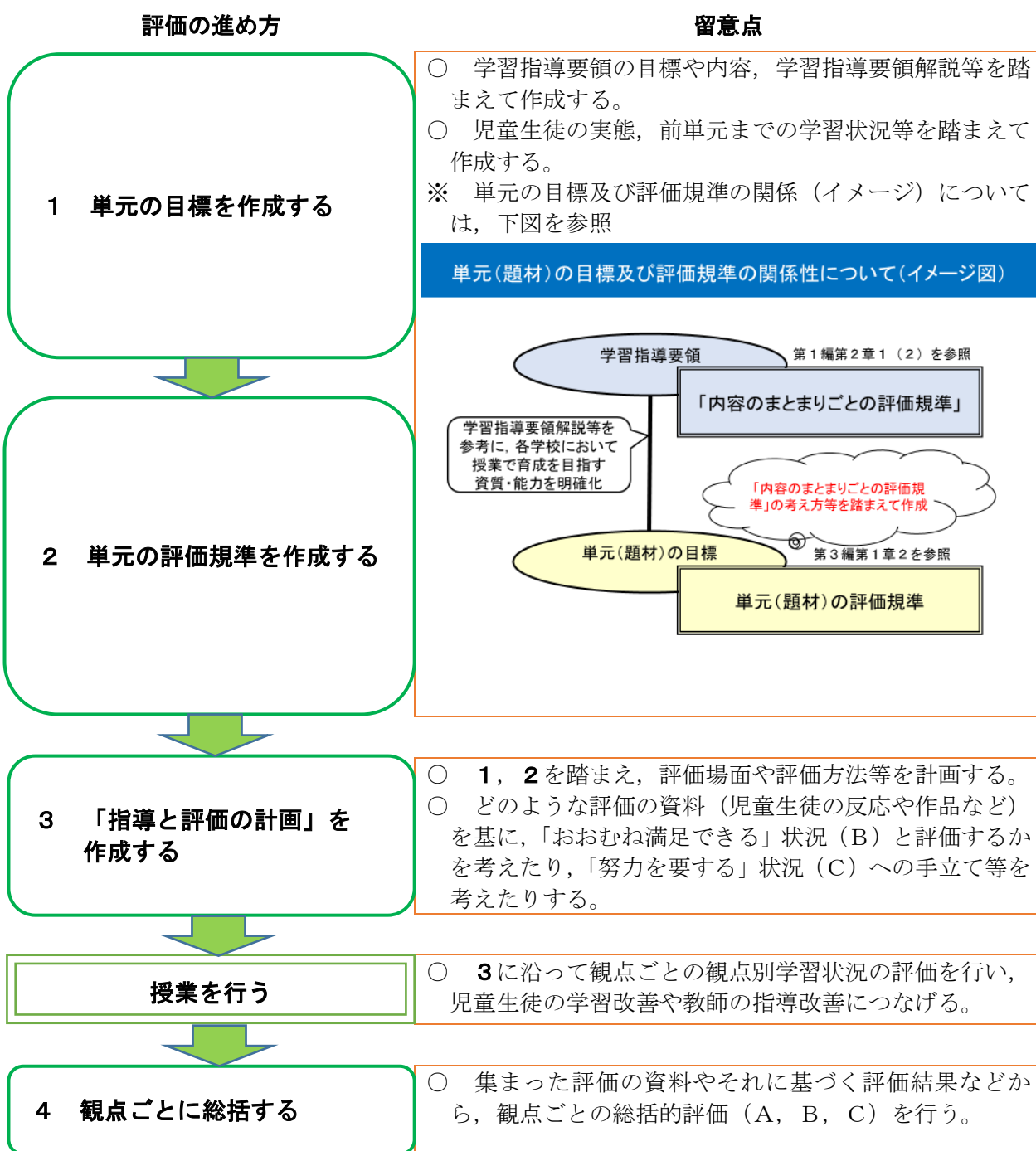
- 1 事例の特徴
- 2 各事例概要一覧

事例

## 第1章 「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方を踏まえた評価規準の作成

### 1 本編事例における学習評価の進め方について

各教科の単元における観点別学習状況の評価を実施するに当たり、まずは年間の指導と評価の計画を確認することが重要である。その上で、学習指導要領の目標や内容、「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方等を踏まえ、以下のように進めることが考えられる。なお、複数の単元にわたって評価を行う場合など、以下の方法によらない事例もあることに留意する必要がある。



## 2 単元の評価規準の作成のポイント

### (1) 単元における各観点の評価規準作成の留意事項

各学校で行われる評価計画の作成においては、後掲する「内容のまとまりごとの評価規準」を「単元の評価規準」とすることが基本形となる。ただし、その際にも、実際の授業に照らし合わせて、「単元の評価規準」を構成する各観点の評価規準をしっかりと吟味することが必要であり、その意味において、単元における各観点の評価規準の設定に当たっては、以下のような点に留意する必要がある。

#### ① 「知識・技能」の観点の評価規準作成に当たっての留意事項

中学校学習指導要領解説社会編（以下、「解説」という）には、平成 20 年版に続き平成 29 年版においても、基礎的・基本的な「知識及び技能」に関して、「系統性に留意しながら、主として、①社会の変化や科学技術の進展等に伴い、社会的な自立等の観点から子どもたちに指導することが必要な知識・技能、②確実な習得を図る上で、学校や学年間等であえて反復（スパイラル）することが効果的な知識・技能、等に限って、内容事項として加えることが適当である」との記載を行っている。

さらに、平成 29 年版の学習指導要領改訂においては、学んだ内容が、既得の知識及び技能と関連付けながら深く理解され、他の学習や生活の場面でも活用できる「生きて働く」知識や技能となることが重視されている。このうち知識については、社会的事象等の特色や意味、理論などを含めた社会の中で汎用的に使うことのできる概念等に関わる知識を獲得するように学習を設計することが求められ、技能については、解説中に「参考資料 3 社会的事象等について調べまとめる技能」として、身に付けるべき技能の例を整理したところである。

これらのことを踏まえれば、単元の目標においても、その評価規準においても、「細かな事象を網羅的に羅列」して求めることの無いよう留意することが必要である。

#### ② 「思考・判断・表現」の観点の評価規準作成に当たっての留意事項

今回の改訂において、「社会的な見方・考え方」が資質・能力の育成全体に関わるものであるが、課題を追究したり解決したりする活動において、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の「視点や方法（考え方）」と説明されている。このことを踏まえれば、「社会的な見方・考え方」は、とりわけ「思考力、判断力、表現力等」の育成に当たって重要な役割を果たすものであると捉えられる。

そこで、学習指導要領及びその解説に示された、分野等の特質に応じた視点の例や、視点を生かした考察や構想（選択・判断）に向かう「問い」の例などを踏まえ、各単元において、それぞれの「見方・考え方」を視野に、具体的な「視点」等を組み込んだ評価規準を設定することが重要である。単元を見通した「問い」を設定し、「社会的な見方・考え方」を働かせることで、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連等を考察したり、社会に見られる課題を把握してその解決に向けて構想したりする学習を一層充実させることが可能となる。

#### ③ 「主体的に学習に取り組む態度」の観点の評価規準作成に当たっての留意事項

従前の学習指導要領から一貫して重視されてきた、課題の発見、解決のための「思考力、判断力、表現力等」とも相まって、現実の社会的事象を扱うことのできる社会科ならではの「主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成（「②社会科の改訂の基本的な考え方（ウ）」）が必要である。

ただし、従前の観点「関心・意欲・態度」については、中央教育審議会における平成 22 年版「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」において、『関心・意欲・態度』については、表面的な状況のみに着目することにならないように留意するとともに、教科の特性や学習指導の内容等も踏まえつつ、ある程度長い区切りの中で適切な頻度で『おおむね満足できる』状況等にあるかどうかを評価するなどの工夫を行うことも重要である」とされていた。

このことを踏まえれば、「関心・意欲・態度」とその趣旨を同じくする「主体的に学習に取り組む態度」についても、ある程度長い区切りの中で評価することが考えられ、単元を越えて評価規準を設定することも考えられる。

## （２）「内容のまとまり」と「単元」の大小関係に着目した評価規準作成のポイント （地理的分野を事例として）

前項(1)や第 2 編第 2 章において既述のとおり、後掲する「内容のまとまりごとの評価規準」は、「内容のまとまり」である、学習指導要領の各「中項目」の記載事項を基に作成されている。そして、この「内容のまとまりごとの評価規準」が、各校において実際に作成される各単元、各授業における評価規準の基本形となる。中学校社会科においては、原則としてこの「内容のまとまりごとの評価規準」を基に、各分野の項目構成の特色を踏まえた上で、「単元の評価規準」を作成することになる。

「単元の評価規準」の設定に当たっては、第 1，2 編で既述のとおり、それと表裏一体をなす「単元の目標」の設定が行われるが、これは自明のことでもあり、ここでは本資料が学習評価のための参考資料であるという性格上、紙幅の都合によりその記述は割愛している。

なお、この項では、社会科における「内容のまとまり」と「単元」の大小関係に着目した評価規準作成のポイントについて、代表事例として地理的分野を例にとり、以下にその作成の手順について、「内容のまとまり」と「単元」の大小関係に着目して、①内容のまとまりを単元とする場合（下図 B (1)）、②内容のまとまりの一部を単元とする場合（同 C (3)④）、③内容のまとまりを超えて単元とする場合（同 C (1) + (4)）の三つのケースに分けて記述する。

| 大項目               | A 世界と日本の地域構成 | B 世界の様々な地域            |  |            |   |   |   | C 日本の様々な地域      |                       |  |            |   |   |            |              |   |
|-------------------|--------------|-----------------------|--|------------|---|---|---|-----------------|-----------------------|--|------------|---|---|------------|--------------|---|
| 中項目<br>(＝内容のまとまり) | (1) 地域構成     | (1) 世界各地の<br>人々の生活と環境 |  | (2) 世界の諸地域 |   |   |   | (1) 地域調査<br>の手法 | (2) 日本の地域的<br>特色と地域区分 |  | (3) 日本の諸地域 |   |   | (4) 地域の在り方 |              |   |
| 小項目等              |              |                       |  | ①          | ② | ③ | ④ | ⑤               | ⑥                     |  |            | ① | ② | ③          | ④中国・<br>四国地方 | … |

図 地理的分野における項目構成とケース①～③の位置付け

### ① ケース 1 ; 「内容のまとまり＝単元」とし、「内容のまとまりごとの評価規準」を基に、「単元（授業）の評価規準」を作成する場合

中学校社会科各分野は、いずれもその中項目をもって「内容のまとまり」とすることと整理された。

そこで、「内容のまとまり」を一つの「単元」として設定する場合には、「内容のまとまりごとの評価規準」を各中項目の評価規準として転記し、用いることが可能である。

例えば、地理的分野のB(1)「世界各地の人々の生活と環境」を単元として設定した場合、「内容のまとまりごとの評価規準」に示された次の記載をもって、評価規準とすることができる。

### 〔ケース1の事例〕

#### 内容のまとまりごとの評価規準（大項目B、中項目(1)「世界各地の人々の生活と環境」）

| 知識・技能                                                                                                                                                                                                         | 思考・判断・表現                                                                                                                     | 主体的に学習に取り組む態度                                                                                               |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすることを理解している。</li> <li>・世界各地における人々の生活やその変容を基に、世界の人々の生活や環境の多様性を理解している。その際、世界の主な宗教の分布についても理解している。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由を、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件などに着目して多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界各地の人々の生活と環境について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</li> </ul> |

なお、「内容のまとまりごとの評価規準」を「単元の評価規準」として使用する以外に、後掲する「事例1」などのように、「内容のまとまりごとの評価規準」を踏まえつつ、学習指導要領解説等の記述を用いて具体的な「単元の評価規準」を設定することも考えられる。とりわけ社会科においては、その授業の性格上、各単元において取り扱う事象は、特定の社会的事象であり、そこで取り扱う主題や設定する問いも具体的な事象を基に設定されることが一般的である。このことから、そのような具体的な目標及び評価規準の設定も、指導と評価の一体化を促す一つの工夫として考えられる。

### ② ケース2 ; 「内容のまとまり>単元」とし、「内容のまとまりごとの評価規準」を基に、その「内容のまとまり」を構成する幾つかの「単元」について評価規準を作成する場合

例えば、地理的分野のB(2)「世界の諸地域」における各州、C(3)「日本の諸地域」における各地方など、「内容のまとまり」である中項目の下の①、②…といった小項目について評価規準を作成する場合などがそれに当たる。また、それ以外にも、例えば、B(2)「世界各地の人々の生活と環境」において、その「内容」に示された「人々の生活は、その生活が営まれる場所の自然及び社会的条件から影響を受けたり、その場所の自然及び社会的条件に影響を与えたりすること」の理解を目指す学習と、「世界各地における人々の生活やその変容を基に、世界の人々の生活や環境の多様性」の理解を目指す学習を、それぞれ独立した単元として設定するような場合にも、このケースが当てはまる。

このうち、地理的分野におけるC(3)「日本の諸地域」の中国・四国地方の（例：人口や都市・村

落を中核とした) 学習において評価規準を作成する場合には、次のとおり、日本の諸地域を対象とした「内容のまとまりごとの評価規準」の記載事項を基に、それを細分しつつ具体化した「単元の評価規準」を設定することができる。

### 【ケース2の事例】

内容のまとまりごとの評価規準（大項目C「日本の様々な地域」の中項目(3)「日本の諸地域」）

| 知識・技能                                                                                                                                                                             | 思考・判断・表現                                                                                                                                                                        | 主体的に学習に取り組む態度                                                                                                |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>幾つかに区分した日本のそれぞれの地域</u>について、その地域的特色や地域の課題を理解している。</li> <li>・ <u>①から⑤までの考察の仕方</u>で取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解している。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>日本の諸地域</u>において、<u>それぞれ①から⑤までで扱う中核となる事象の成立条件</u>を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>日本の諸地域</u>について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</li> </ul> |



新たに設定した単元の評価規準（大項目C、中項目(3)、小項目「中国・四国地方」）

| 知識・技能                                                                                                                                                                         | 思考・判断・表現                                                                                                                                                                       | 主体的に学習に取り組む態度                                                                                                 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>中国・四国地方</u>について、その地域的特色や地域の課題を理解している。</li> <li>・ <u>人口や都市・村落を中核とした考察の仕方</u>で取り上げた特色ある事象と、それに関連する他の事象や、そこで生ずる課題を理解している。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>中国・四国地方</u>において、<u>人口や都市・村落を中核に設定した事象の成立条件</u>を、地域の広がりや地域内の結び付き、人々の対応などに着目して、他の事象やそこで生ずる課題と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>中国・四国地方</u>について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</li> </ul> |

注) 下線部は、「内容のまとまりごとの評価規準」を基に、細分しつつ具体化した部分

ただし、ここでの学習は、「内容のまとまり」である中項目を構成する一小項目であることから、後掲する「事例2」のように、この小項目で記録する観点別評価の観点を絞り、「主体的に学習に取り組む態度」については評価場面を精選することが考えられる。なお、ここで示した「内容のまとまりごとの評価規準」の記載事項を基に、それを「単元の評価規準」に細分しつつ具体化する手順は、さらに「小単元」とか、各授業レベルでの評価規準に落とし込む場合においても適用されるものであり、一連の評価規準の具体化の手順において用いられるものである。

### ③ ケース3 ; 「内容のまとまり<単元」とし、複数の「内容のまとまりごとの評価規準」を基に、それを束ねる「単元」として「内容のまとまり」を越えて評価規準を作成する場合

単元は、学校、地域、生徒の実態等に応じて設定するため、場合によっては単元そのものを中項目



よりも大きなまとまりを対象に設定することも考えられる。各観点のうち、「知識・技能」のうちの「知識」については、中項目ごとに習得させる知識があることが一般的であることから、多くの場合、「評定のための資料として用いる評価（以下、「評定に用いる評価」という）」を行わないことは考えにくい。しかし、「知識・技能」のうちの「技能」や「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」については、他の中項目と同様の評価規準が考えられる場合、評価場面を精選し、複数の中項目にまたがった単元構成及び評価場面設定をすることも考えられる。

例えば、地理的分野では、「内容の取扱い」にも例示された、C(1)「地域調査の手法」とC(4)「地域の在り方」において、それを結び付けて行う場合が考えられ、以下に示したとおり、二つの中項目を一つの大きな「単元」とし、それぞれに示された評価規準を並列併記して設定することが考えられる。

### 【ケース3の事例1】

#### 内容のまとまりごとの評価規準（大項目C、中項目(1)「地域調査の手法」）

| 知識・技能                                                                                                                                              | 思考・判断・表現                                                                                                                        | 主体的に学習に取り組む態度                                                                                         |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方の基礎を理解している。</li> <li>・地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などの地理的技能を身に付けている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域調査において、対象となる場所の特徴などに着目して、適切な主題や調査、まとめとなるように、調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域調査の手法について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</li> </ul> |

#### 内容のまとまりごとの評価規準（大項目C、中項目(4)「地域の在り方」）

| 知識・技能                                                                                                                                   | 思考・判断・表現                                                                                                                     | 主体的に学習に取り組む態度                                                                                           |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の実態や課題解決のための取組を理解している。</li> <li>・地域的な課題の解決に向けて考察、構想したことを適切に説明、議論しまとめる手法について理解している。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の在り方を、地域の結び付きや地域の変容、持続可能性などに着目し、そこで見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の在り方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</li> </ul> |



#### 新たに設定した単元の評価規準（大項目C、中項目(1)＋(4)「地域調査の手法と地域の在り方」）

| 知識・技能                                                                                                                 | 思考・判断・表現                                                                                                            | 主体的に学習に取り組む態度                                                                                         |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方の基礎を理解している。</li> <li>・地形図や主題図の読図、目的</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域調査において、対象となる場所の特徴などに着目して、適切な主題や調査、まとめとなるように、調査の手法やその結果を多面的・多角的</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域調査の手法について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</li> </ul> |

|                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                  |                                                                                                         |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>や用途に適した地図の作成などの地理的技能を身に付けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の実態や課題解決のための取組を理解している。</li> <li>・地域的な課題の解決に向けて考察、構想したことを適切に説明、議論しまとめる手法について理解している。</li> </ul> | <p>に考察し、表現している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の在り方を、地域の結び付きや地域の変容、持続可能性などに着目し、そこで見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の在り方について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。</li> </ul> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|

また、同じくC(1)「地域調査の手法」とC(4)「地域の在り方」を結び付けて行う場合、評価場面の精選という観点から、以下に示したとおり、「主体的に学習に取り組む態度」のみを併せて一つ評価規準として設定することなども考えられる。

先の事例が中項目C(1)とC(4)を一連の学習活動として、あたかも一つの中項目と見なして評価対象とするのに対して、この場合、C(1)とC(4)はそれぞれが内容のまとまりである独立した評価対象であり、「知識・技能」、「思考・判断・表現」はそのままに、「主体的に学習に取り組む態度」のみをまとめて評価するものである。

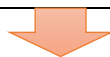
### 【ケース3の事例2】

内容のまとまりごとの評価規準（大項目C、中項目(1)「地域調査の手法」）

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|-------|----------|---------------|
| 略     | 略        | 略             |

内容のまとまりごとの評価規準（大項目C、中項目(4)「地域の在り方」）

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|-------|----------|---------------|
| 略     | 略        | 略             |



新たに設定した単元の評価規準（大項目C、中項目(1)「地域調査の手法」・中項目(4)「地域の在り方」）

| 中項目(1) | 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度<br>・ <u>地域調査を踏まえ、地域の在り方</u> について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 |
|--------|-------|----------|------------------------------------------------------------------------------------------|
|        | 《省略》  | 《省略》     |                                                                                          |
| 中項目(4) | 知識・技能 | 思考・判断・表現 |                                                                                          |
|        | 《省略》  | 《省略》     |                                                                                          |

地理的分野において「主体的に学習に取り組む態度」の評価場面を減じる、このような考え方に基



づけば、例えば、あとの図のように、複数の「内容のまとまり」にまたがった評価規準を設定することなども考えられる。

「主体的に学習に取り組む態度」に関して、複数の「内容のまとまり（中項目）」にまたがって評価することで、評価場面を減じた例（上段；項目番号，下段；評価場面の累積数）

|       |           |       |           |       |       |       |
|-------|-----------|-------|-----------|-------|-------|-------|
| A (1) | B (1)     | B (2) | C (1)     | C (2) | C (3) | C (4) |
| 1回目   | B (2)とともに | 2回目   | C (4)とともに | 3回目   | 4回目   | 5回目   |

すなわち，ここではB (1)「世界各地の人々の生活と環境」とB (2)「世界の諸地域」とにまたがって「世界の諸地域と人々の生活と環境について，…しようとしている」かどうかを評価し，C (2)「日本の地域的特色と地域区分」とC (3)「日本の諸地域」とにまたがって「日本の諸地域の地域的特色と地域区分について，…しようとしている」かどうかを評価することになる。また，C (1)「地域調査の手法」とC (4)「地域の在り方」とにまたがって「地域調査を踏まえた地域の在り方について，…しようとしている」かどうかを評価することになる。この場合，地理的分野の「内容のまとまり」である中項目の数だけあった「評定に用いる評価」場面の7回を，5回に割愛，精選することができる。（このことをもって「評定のための資料としては用いないものの日常の学習改善につなげる評価（以下，「学習改善につなげる評価」という）」まで割愛，精選することを意味するものではない。）

なお，上記①～③の3つのケースの他に，後掲する各分野の「内容のまとまりごとの評価規準」の一覧表上では，「知識・技能」中の「技能」に関して，学習指導要領の各中項目に記載のあるもののみそれを表し，他の中項目では割愛していることに留意する必要がある。そのため，一覧表上の「内容のまとまり」において「技能」についての記載がない中項目もあるが，各分野の「内容の取扱い」において記載されている事項や，学習指導要領解説の巻末に「参考資料3」として示された「社会的事象等について調べまとめる技能」等を参考に，「技能」自体の系統性や生徒自身の習熟を考慮した上で，適宜適切な形で評価場面を設定することが必要となる。

## 第2章 学習評価に関する事例について

### 1 事例の特徴

第1編第1章2（4）で述べた学習評価の基本的な方向性を踏まえつつ、平成29年改訂学習指導要領の趣旨・内容の徹底に資する評価の事例を示すことができるよう、本参考資料における各教科の事例は、原則として以下のような方針を踏まえたものとしている。

#### ○ 単元に応じた評価規準の設定から評価の総括までとともに、児童生徒の学習改善及び教師の指導改善までの一連の流れを示している

本参考資料で提示する事例は、いずれも、単元（題材）の評価規準の設定から、最終的に学習過程で得た評価情報を総括するまでとともに、評価結果を児童生徒の学習改善や教師の指導改善に生かすまでの一連の学習評価の流れを念頭においたものである。なお、各教科とも事例の一つは、この一連の流れを特に丁寧を示している。

#### ○ 観点別の学習状況について評価する時期や場面の精選について示している

報告や改善等通知では、学習評価については、日々の授業の中で児童生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことに重点を置くことが重要であり、「評定に用いる評価」となる観点別の学習状況については、毎回の授業ではなく原則として単元など内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、その場면을精選することが重要であることが示された。このため、観点別の学習状況について評価する時期や場面の精選について、「指導と評価の計画」の中で、具体的に示している。

#### ○ 原則として「評定に用いる評価」への手順を示している

上記の「観点別の学習状況について評価する時期や場面の精選」の説明にも示すとおり、本参考資料の第2章以降が、一義的に「学習評価の基本的流れ」を示すものであることから、以下の事例1～事例6のいずれの事例に関しても、そこに共通する「1 単元の目標」「2 単元の評価規準」「3 指導と評価の計画」はもちろん、それ以外の項目においても「評定に用いる評価」を念頭に「評価規準」として示している。よって、事例によっては「学習改善につなげる評価」は、紙幅の関係もあって参考例を記載するに留めており、それ自体は、授業中における生徒の反応に対して常時心掛けるべき「指導」でもあることに留意が必要である。

#### ○ 評価方法の工夫を示している

各教科・科目の評価の中で、ワークシートや作品などの評価材料をどのように活用したかなど、教科の特性に応じて、評価方法の多様な工夫について示している。

## 2 各事例概要一覧

### 事例1 キーワード 「評価方法の工夫～思考力等を問うペーパーテストの工夫改善～」

#### 単元 世界各地の人々の生活と環境 （地理的分野 B(1)「世界各地の人々の生活と環境」)

この単元では、「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」における「知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮したペーパーテストの工夫改善」という課題を踏まえ、このうちの「知識の概念的な理解を問う」過程での思考力に着目し、ペーパーテストの工夫改善に向けた一試案を示すこととした。社会的事象の規則性、傾向性の獲得を目指した問題の在り方、誤答分析の仕方、問題のブラッシュアップなどに加え、問題の活用の在り方について示すこととした。

### 事例2 キーワード 「評価場面の精選～重点化と系統化～」

#### 単元 中国・四国地方 （地理的分野 C(3)②「人口や都市・村落を中核とした考察の仕方」)

この単元では、C(3)「日本の諸地域」における「人口や都市・村落を中核とした考察の仕方」を踏まえた「中国・四国地方」を小項目として設定している。「日本の諸地域」では、それを地域に細分して動態地誌的に扱うが、地域区分の仕方やそれぞれの考察の仕方等によって、小項目ごとに重視すべき評価の観点を絞り込むことが考えられる。また、それらを束ねる単元である中項目全体を通して、生徒の地誌学習に対する習熟が高まり、同じ観点の評価規準でも、求める水準が高まっていくことが考えられる。よってここでは、内容のまとまりである中項目を単元とした評価計画を参考資料として併せて示すことで、設定される評価の重点化と系統化の考え方を示すこととした。

### 事例3 キーワード 「大きな単元構成による指導と評価の計画」

#### 単元 近世の日本 （歴史的分野 B(3)「近世の日本」他）

歴史的分野では、「内容のまとまり」となる中項目が、学習における大きな単元として機能し、評価においても一つのまとまりをもって構成されている。そこでは「知識・技能」と「思考・判断・表現」それぞれの観点が、相互に関連をもちつつ「小単元」の学習ごとに評価の場面が設定されることや、「主体的に学習に取り組む態度」について、中項目を通した長期的な学習の視点に立って評価をおこなうことなどが考えられる。あわせて、C(2)イ(ウ)の「構想」をおこなう学習の事例も含め、中項目を大きな単元構成とした学習指導と、それに沿った評価の在り方について示し、この分野の基本的な評価の構造を示すこととした。

### 事例4 キーワード 「複数の項目を統合した単元の評価」

#### 単元 明治維新と近代国家の形成 （歴史的分野 A(2)「身近な地域の歴史」及びC(1)「近代の日本と世界」)

歴史的分野「A(2)身近な地域の歴史」は、その「内容の取扱い」において、「内容のB以下の学習と関わらせて計画的に実施」することが示されている。ここでは、「A(2)身近な地域の歴史」と「C(1)近代の日本と世界 ア(イ)」を合わせて一つの「小単元」として設定した事例を示し、A(2)とC(1)ア(イ)のそれぞれの評価規準を合わせて示した事例を示すこととした。なお、A(2)とC(1)ア(ウ)の一部を合わせた「小単元」の一部を示し、ワークシートやペーパーテストの活用例を合わせて掲載することで、具体的な評価の在り方についての参考事例とした。

**事例5** キーワード 「指導と評価の計画から評価の総括まで」**単元** 民主政治と政治参加 （公民的分野 C(2)「民主政治と政治参加」）

公民的分野では、いずれの事例でも「内容のまとまり」を単元として設定している。今改訂で再整理された、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」がバランスよく育まれるよう、20 時間あまりの本単元の学習を事例として、三つの観点の評価を行う場面の精選と観点ごとの評価の総括について示した。

**事例6** キーワード 「『主体的に学習に取り組む態度』の評価」**単元** 世界平和と人類の福祉の増大 （公民的分野 D(1)「世界平和と人類の福祉の増大」他）

新たな観点として設定された「主体的に学習に取り組む態度」は、生涯にわたり学習する基盤を形成することに資するものであり、それぞれの教科等において、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価するものである。本単元の学習を事例として、「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準及び評価方法などについて示した。

社会科（地理的分野） 事例 2

キーワード 評価場面の精選（重点化・系統化）

単元名

日本の諸地域～中国・四国地方～  
人口や都市・村落を中核として

内容のまとめ

C「日本の様々な地域」  
(3)「日本の諸地域」

1 単元の目標

- 中国・四国地方について、都市部と山間部や離島との間で見られる人口偏在や、それぞれの地域での持続可能な地域づくりに向けた取組があることを理解させる。
- 人口や都市・村落を中核とした考察の仕方を取り上げた人口の偏在や持続可能な地域づくりに向けた取組と、それに関連する特色ある自然環境や産業の様子や、そこで生ずる課題を理解させる。
- 中国・四国地方において、「人口減少が進み、人口の偏在が見られる中で、地域に応じた地域づくり地域づくりの取り組みが、どのように進められているのか」を、都市部と山間部・離島の地域の広がりや各地域内の結び付き、人々の対応に着目して、特色ある自然環境や産業の様子やそこでの人口の偏在や持続可能な地域づくりに向けた取組と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現させる。

2 単元の評価規準

| 知識・技能                                                                                                                                                                                                                      | 思考・判断・表現                                                                                                                                                                                                                                |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>中国・四国地方について、都市部と山間部や離島との間で見られる人口偏在や、それぞれの地域での持続可能な地域づくりに向けた取組があることを理解する。</li> <li>人口や都市・村落を中核とした考察の仕方を取り上げた人口の偏在や持続可能な地域づくりに向けた取組と、それに関連する特色ある自然環境や産業の様子や、そこで生ずる課題を理解する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>中国・四国地方において、「人口減少が進み、人口の偏在が見られる中で、地域に応じた地域づくり地域づくりの取り組みが、どのように進められているのか」を、都市部と山間部・離島の地域の広がりや各地域内の結び付き、人々の対応に着目して、特色ある自然環境や産業の様子やそこでの人口の偏在や持続可能な地域づくりに向けた取組と有機的に関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する。</li> </ul> |

3 指導と評価の計画（5時間）

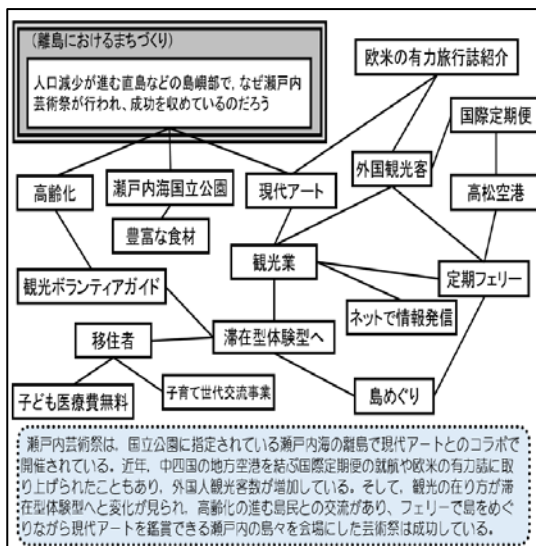
|               | ねらい・学習活動                                                                                                                                                     | 知 | 思 | 態 | 評価規準・評価方法                                                                                                                                                                                  |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第一次<br>(1時間扱) | 【ねらい】資料から中国・四国地方を特色付ける地理的事象を見出させる。                                                                                                                           |   |   |   |                                                                                                                                                                                            |
|               | <ul style="list-style-type: none"> <li>地図を見て中国・四国地方の自然環境を概観し、都市の分布から人口の偏在の状況を捉えさせる。</li> <li>中国・四国地方の人口の推移や年齢別人口構成の推移から、人口や都市・村落に関連する地理的事象を見出させる。</li> </ul> |   |   |   | <p>＜特色付ける地理的事象＞</p> <p>中国・四国地方には、東西に平行して中国山地と四国山地があり、その南北に平野や盆地が点在し、両山地の間に瀬戸内海が位置している。都市が点在する平野と、山間部や瀬戸内海などの離島間には人口の偏在が見られる。また、近年、少子高齢化の進展に伴い、都市でも人口減少の傾向があり、中国・四国地方では、全体的に人口減少が進んでいる。</p> |

第二次  
(3時間  
扱)

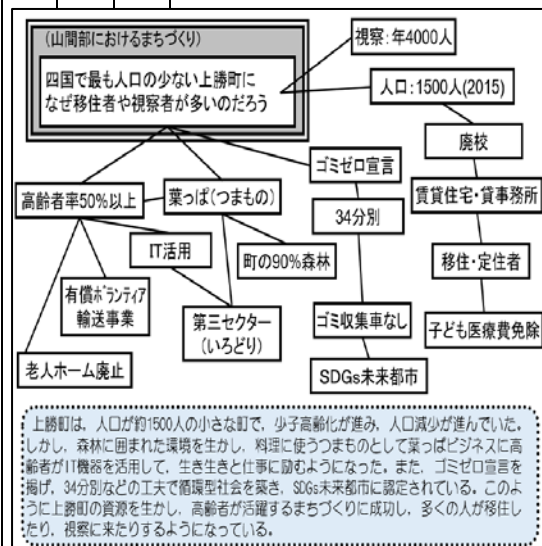
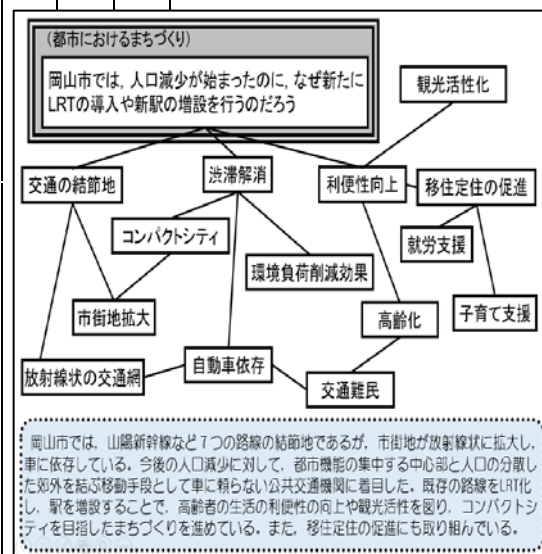
【ねらい】中国・四国地方全体で進んでいる人口減少に対して、地域に応じた持続可能な地域づくりの取組について、人口や都市・村落を中核とした考察の仕方を基に、多面的・多角的に考察させる。

【学習課題】「人口減少に対して、各地でどのような取組が行われているのか」

- ・第一次で見出した中国・四国地方を特色付ける地理的事象から、学習課題を設定する。
- ・課題を設定するに当たり、中国・四国地方における都市部、山間部、離島で見られる人口減少対策の事例を紹介し、それぞれの地域についてグループで考察させる。
- ・近年、人口の減少が始まった都市部と、高齢化と人口減少が急速に進行している山間部や離島では、実態が異なるためいくつかの地域を取り上げて調べさせる。
- ・それぞれの地域における人口減少に対する取組や地域的特色に関する資料から読み取った地理的事象を関連付けて、地域的特色や取組をウェビング図を含むワークシートに各自でまとめさせる。
- ・各自でまとめた地域的特色や取組について、グループ内で説明し合う中で、新たな発見をウェビング図に追記して、地域的特色や取組についてまとめさせる。



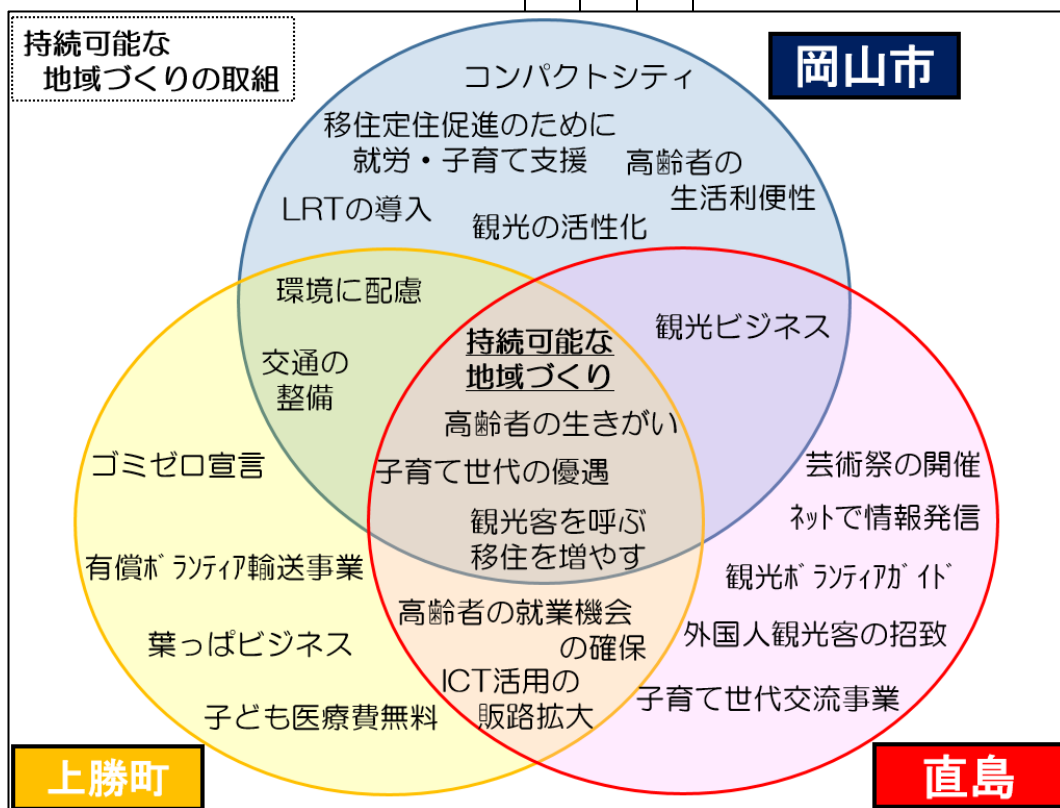
- ・ウェビング図を基に、自分が担当する地域の地域的特色や取組について、ワークシートに自分の言葉でまとめさせる。



- ①人口減少に対して、地域の実態に応じて地域づくりの取組が進められていることをウェビング図を含むワークシートで見取って評価する。



|                       |                                                                                                                                                                                                                                                |          |          |                                                                                                                                                                                                                        |
|-----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>第三次<br/>(1時間扱)</p> | <p>【ねらい】中国・四国地方の地域的特色や取組について、考察した過程や結果をベン図にまとめさせ、それを基に説明させる。</p>                                                                                                                                                                               |          |          |                                                                                                                                                                                                                        |
|                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>中国・四国地方のそれぞれの地域における人口減少に対する取組について、ウェビング図を作成したグループを解体して、自分が担当しなかった地域についてまとめたメンバーと新たなグループを編成させる。</li> <li>新たなグループで、それぞれの地域における人口減少に対する取組について、ウェビング図を基に説明し合い、それぞれの取組の共通点に着目して、地域的特色をベン図にまとめさせる。</li> </ul> |          |          | <p>＜ベン図作成手順＞</p> <p>まず第二次でまとめたウェビング図を基に取り上げたそれぞれの地域について説明し合い、それぞれの地域における人口減少に対する取組を、ウェビング図から取り出し、ベン図中のそれぞれの地域の枠に記入する。次に、ベン図中で地域が重なる部分に、それぞれの地域での取組で共通することを記す。最後に、ベン図中央に、中国・四国地方における人口減少に対する取組から見える、地域的特色を表す言葉を考える。</p> |
|                       | <p>・ベン図を作成する過程で見出した持続可能な地域づくりのための取組から、中国・四国地方の地域的特色を表す言葉を見出し、中国・四国地方全体としての地域的特色を自分の言葉でまとめさせる。</p>                                                                                                                                              | <p>②</p> | <p>②</p> | <p>②各地域の取組を比較し、共通することをベン図にまとめる中で、地域的特色を表す言葉を見出し、地域的特色をまとめられているか、ワークシート中のベン図と説明文から見取って評価する。</p> <p>・作成したベン図を基に、地域的特色をまとめられているか、ワークシートの説明文から見取って評価する。</p>                                                                |



#### 4 観点別学習状況の評価の進め方

後掲の資料で示したように、ここでの学習においては、「知識・技能」の「知識」の部分と「思考・判断・表現」について重点を置いて評価することになっている。

「知識」の評価については、取り上げる地方によって地域的特色や課題が異なるため、日本の諸地域全般を通じて、各地方の特徴的な地域的特色や課題についての知識を評価の対象としている。また、「思考・判断・表現」の評価については、これまでも生徒は、北海道地方や九州地方の学習において、それぞれの問いに基づいて「思考」しているが、この中国・四国地方の学習では、ウェビング図やベン図を用いて「表現」することで、様々な事象を関連付けて思考する過程を視覚的に把握したり、地域的特色や課題について協議したりすることから、この部分を観点別評価の対象としている。

なお、ここで「評価に用いる評価」の対象としていない「技能」や「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、後掲の[参考資料1](#)にあるように他地方の学習の中で系統立てて評価を進めることにしている。

|            |                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|            | 「努力を要する」状況（C）と評価される生徒への指導の手立ての例                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                |
| 【知識・技能】    | 中国・四国地方の地域的特色や課題について、十分な理解が得られない生徒に対して、その生徒が取り組みやすい地域を選んでウェビング図を確認させたり、ウェビング図とベン図との対応関係を1つずつ確認させたりすることで、学習内容を整理させる。                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                |
| 【思考・判断・表現】 | ①について<br>中国・四国地方の各地域における持続可能な地域づくりの取組が、その地域における自然環境や産業などに関する事象と結び付けて考えられていない生徒へは、各地域でみられる特色をどのように生かして、人を呼び込もうとしているかに着目して、関連する事象をつなげてウェビング図にまとめるよう助言する。                                                   | 【(B) と評価される生徒の具体的な例】<br>「指導と評価の展開例」中のウェビング図に表された人口減少に対するそれぞれの地域の取組について、その地域における自然環境や産業に関する事象を、資料から読み取り、ウェビング図に関連付けて、適切に表現していると判断できた生徒については、(B) と評価することが適当であると考えられる。                                            |
|            | ②について<br>中国・四国地方の地域的特色として、取り上げた地域における取組についての記述に留まっている生徒に対しては、各地域で行われた地域づくりの取組を比較して、共通することを見出すよう助言する。共通することを見出す際に、ベン図を作成する際に用いたウェビング図中に表した取組と関連のある事象にも着目して、人口減少に対して、それぞれの地域が今後も持続していくために必要なことは何かといった考察の仕方 | 【(B) と評価される生徒の具体的な例】<br>「指導と評価の展開例」中の「持続可能な地域づくりの取組」についてのベン図を作成する過程で、3つの地域で行われた具体的な取組を比較し、共通する地域的特色である「地域の実態に応じた、地域を持続させるための取組が行われていること」を見出し、中国・四国地方の地域的特色をワークシートにまとめていると判断できた生徒については、(B) と評価することが適当であると考えられる。 |

## 5 観点別学習状況の評価の留意事項

今回取り上げた「中国・四国地方」は、内容のまとまりである中項目「日本の諸地域」（全32時間扱い）を構成する小項目という位置付けであり、「内容のまとまり（中項目）＝単元」である地理的分野の事例1「世界各地の人々の生活と環境」とは構成が異なっている。そこで、「単元」が意味するところに誤解が生じないように、この「5 観点別学習状況の評価」においては、便宜上、内容のまとまりである「日本の諸地域」については「単元」と呼び、「中国・四国地方」等の小項目については、「小単元」として、区別して呼ぶこととする。このように、幾つかの小単元で構成される単元の観点別学習状況の評価するに当たり、どのようなことに留意すべきか、次の3点について確認する。

### （1）重点化について

内容のまとまりごとに観点別評価を行うに当たり、その評価を円滑に実施するために、単元を構成する小単元ごとに重点を置く観点を設定することで、評価の重点化を図ることが考えられる。例えば、この「日本の諸地域」を単元とする学習では、従前の「日本の諸地域」学習でも多用されていた七地方区分を踏襲し、七地方をそれぞれ小単元として設定し、各小単元で評価の観点を絞り、評価計画に位置付けることとした。

後掲の参考資料1に示すように、「主体的に学習に取り組む態度」については、ある程度長い区切りの中で、適切な頻度で評価することに留意し、単元の冒頭と終結の2場面で評価することとした。単元の冒頭では、日本の諸地域の学習に見通しをもって取り組めるよう「学習改善につなげる評価」を行い、単元の終結では、主体的に課題を追究しようとしているかを見取り、単元を通しての変容を基に「評定に用いる評価」を行うこととした。「思考・判断・表現」についても、7つの小単元のうち、後半の3つの小単元で「評定に用いる評価」を行うこととし、重点化を図っている。このうち、前掲の「中国・四国地方」の事例では、ワークシートに示されたウェビング図やベン図の記述を基に評価することを想定している。「知識・技能」については、取り上げた地方の地域的特色の理解を評価することから、それぞれに評価規準を設定し、「評定に用いる評価」を行うこととしている。同じく、「中国・四国地方」の事例では、小単元終了段階にワークシートの記述などを基に評価することを想定しているが、これについては、単元全体の学習が終わった後に、各地方の地域的特色を理解し、その知識を身に付けているかどうかを、ワークシートやノートの記述、ペーパーテストなどをまとめて評価することも考えられる。

### （2）系統化について

単元全体を通して、一つの観点について複数の評価場面や評価方法・手段がある場合は、各小単元の評価計画の系統化を図ることが考えられる。

「知識・技能」のうちの「技能」と「思考・判断・表現」については、例えば、前半の小単元では、教師が提示した資料を基に読み取ったり、考察したことをキーワードや短い文章にまとめたりしたこと、後半の小単元では、生徒自身が資料を収集したり、様々な資料を組み合わせ考察したことを、文章やグラフ、図表など様々な表現方法でまとめたり説明したり議論したりしたことを評価することが考えられる。「中国・四国地方」の事例では、単元「日本の諸地域」の後半に位置付く小単元であることを踏まえ、「思考・判断・表現」については、九州地方で学習した「自然を生かした人々の

生活」,「共生」の視点を,中国・四国地方の地域づくりの取組につなげて考えられるようにしている。

このように,指導と評価の系統化を図ることは,生徒にとって,既習内容を基に評価対象となる考察の程度が深まったり,表現方法を工夫したりと,習熟の度合いが高まることが期待される。

### (3) 単元構成について

単元構成について,「考察の仕方」は,個々の事象が視覚的にも捉えやすい「自然環境」「産業」を前半に位置付け,事象相互の関係が問われることの多い「人口や都市・村落」「交通・通信」を後半に位置付けている。また,単元のまとめとして,新たな中核事象となる「持続可能な社会づくり」を視点として設け,既習の4つの考察の仕方を総合的に取り上げる設定としている。また,この最後の小単位については,学校所在地を含む地域設定とすることで,C(4)「地域の在り方」と関連付けて学習する設定ともしている。配当時間数については,学習の進行による学習内容の深まりを考慮して差異を設けており,学びを広げ深めていけるよう工夫している。なお,「地域区分」と「考察の仕方」の組合せと順序については,参考資料1にその詳細を示しているので参照されたい。

最後に,参考資料1に示している,「鍵になる概念」と「小単元の中心となる問い」について触れたい。「鍵になる概念」については,参考資料1の考察の仕方の下に,キーワードとして( )で示し,具体的には「☆獲得する認識」として文章で示している。これらは,各小単元の学習を通して捉えさせたい地域的特色を例示したものであり,実際には指導者が指導と評価の計画を作成する際に,明確にしておくことが求められる。「小単元の中心となる問い」については,単元の目標を実現するために,各小単元で行う学習活動において,追究,解決する際に中心となる問い(課題)を示したものである。実際の授業においては,各小単元において,問いは一つとは限らず,場合によっては複数の問いを追究することで目標の実現に迫ることもあったと考えられる。ここでは,あくまで「中心となる問い」として,小単元の学習過程における中心の問いとなるものを例示することとした。また,問いの形については,事実や態様を問う「どのように〜」,原因や理由を問う「なぜ〜」,価値判断や意思決定を問う「どうすれば〜」などがあるが,ここでは,生徒自身の地域学習に対する習熟の度合いを考慮し,主に,単元の前半は「どのように〜」,後半は「なぜ〜」,最後は「どうすれば〜」という問いを設定している。

参考資料 1 <「日本の諸地域」の指導と評価の計画例 川崎市の学校の場合(32 時間扱い)>

| 地域（配当時間）<br>＜考察の仕方＞<br>主な事象<br>（鍵になる概念）                                  | 小単元を中心となる問い<br>☆獲得する認識<br>（＜小単元の構成＞図とともに<br>「知識」に関する評価規準）                                                                                             | 評価の観点            |   |   | ・重点を置く評価活動<br>※重点化 ○：評定に用いる評価<br>●：学習改善につなげる評価<br>※系統化 実線：技能 波線：思考<br>二重線：態度                                                                                                                              |
|--------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|---|---|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                          |                                                                                                                                                       | 知                | 思 | 態 |                                                                                                                                                                                                           |
| 地域区分（１）                                                                  | ・前単元の小項目をもとに七地方に特徴的なことがらをまとめよう。                                                                                                                       |                  |   | ○ | ○日本の諸地域の学習に見通しをもって取り組もうとしている。                                                                                                                                                                             |
| 北海道地方（３）<br>＜自然環境＞<br>最北端，冷涼な気候<br>広大な土地，食料基地，開拓の歴史，土地利用の工夫<br>（自然の開発）   | 北海道地方では，冷涼で広大な自然をどのように開発してきたのだろうか。<br>☆冷涼で広大な自然環境の中，入植者が土地を開拓して農地に改良したり，大型機械の導入や品種改良を図ったりしたことにより北海道地方は日本の食料基地となった。                                    | 知<br>○<br>技<br>● |   |   | ○冷涼で広大な自然を開発してきた北海道地方の地域的特色を理解している。<br>・教師によって提示された資料を基に，そこから読み取った情報を適切に文章化している。<br><br>＜小単元の構成＞<br>冷涼で広大な自然 → 日本の食料基地<br>↑（開発）<br>開拓の歴史 土地利用の工夫                                                          |
| 中部地方（４）<br>＜産業＞<br>中央部，東海・中央高地・北陸の農工業，農工業の自然条件と社会条件<br>（産業の立地）           | 中部地方では，なぜ農業・工業の生産額がともに高いのだろうか。<br>☆中部地方では北陸・内陸・東海で異なる自然環境を生かすとともに，大消費地へ輸送しやすいことから農業・工業ともに生産額が高い。                                                      | 知<br>○<br>技<br>● |   |   | ○農工業の盛んな中部地方の地域的特色を理解している。<br>・教師によって提示された資料を基に，そこから読み取った北陸・中央高地・東海の３地域それぞれの情報を適切に文章化している。<br><br>＜小単元の構成＞<br>高い農工業生産額（第一次・二次産業）<br>↑（立地）<br>自然条件（地形・気候） 社会条件（交通・歴史）                                      |
| 九州地方（４）<br>＜自然環境＞<br>最西端，台風，火山，自然災害，減災の工夫，自然を生かした産業，自然との共生<br>（自然災害と共生）  | 九州地方では，台風がよく通り多くの火山を抱える中でどのように生活を工夫しているのだろうか。<br>☆台風がよく通り，多くの火山を抱える九州地方では，自然災害にみまわれることが多いが，防災，減災に取り組んだり，自然を生かした産業をおこしたりして，自然と共生している。                  | 知<br>○           | ● |   | ○台風がよく通り多くの火山を抱える九州地方の地域的特色を理解している。<br>・自然災害を防いだり減らしたりする工夫や，自然を生かした産業が工夫などを，自然の影響を損害と恩恵の両面から捉えて，文章でまとめている。<br><br>＜小単元の構成＞<br>台風や噴火などの自然災害（自然の影響）<br>↓↑（共生）<br>減災の工夫 自然を生かした産業（自然の恩恵）                     |
| 中国・四国地方（５）<br>＜人口や都市・村落＞<br>人口偏在，都市部，山間部，離島，産業と雇用，地域づくり<br>（都市・村落の地域づくり） | 人口減少が進み，人口偏在がみられる中国・四国地方では，地域に応じた取組がどのように進められているのだろうか。<br>☆人口減少，人口偏在がみられる中国・四国地方では，地域を生かした雇用の創出，観光集客，LRT 導入による利便性向上など，高齢者も子育て世代も暮らしやすい地域づくりを行おうとしている。 | 知<br>○           | ○ |   | ○人口減少，人口偏在がみられる中国・四国地方の地域低特色を理解している。<br>○都市部と山間部や離島における地域づくりの取組を，それぞれの地域性の違いから捉えて，ウェビング図やベン図を用いてまとめている。<br><br>＜小単元の構成＞<br>人口減少・人口偏在<br>↓（都市・村落の取組）<br>岡山市 上勝町 直島<br>↓（持続可能な地域づくり）<br>地域を生かして，どの世代も暮らしやすい |

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                  |                            |                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>東北地方（４）<br/>＜交通や通信＞<br/>格子状骨格道路、<br/>地方都市や文化<br/>遺産の散在、物流<br/>や交流人口増加、<br/>周遊観光、災害対<br/>策<br/>（<b>広域交通網の役割</b>）</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | <p>東北地方では、なぜ格子状に交通網を整備しようとしているのだろうか。<br/>☆東北地方では、格子状に交通網を整備することで、散在する都市や文化遺産などをつなぎ、広域で物流や交流人口を活発にしたり、災害時に避難場所や避難経路を確保したりしようとしている。</p>                                                                            | <p>知<br/>○<br/>技<br/>○</p> | <p>知<br/>○</p> | <p>○格子状に交通網が整備されている東北地方の地域的特色を理解している。<br/>○教師によって提示された資料を基に、そこから読み取った情報を、文章とともに適切にグラフ化、図表化している。</p> <div data-bbox="938 353 1407 501" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>＜小単元の構成＞<br/> <div style="text-align: center;"> <b>広域交通網の整備</b><br/>             ↑（広域交通網の役割）<br/> <b>都市や文化遺産の散在</b>   <b>災害への対応</b> </div> </p> </div>                                                                                                                                                                                                                |
| <p>近畿地方（５）<br/>＜産業＞<br/>観光客の増加、観光産業、歴史的町並み保全、観光公害<br/>（<b>産業の振興と環境の保全</b>）</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | <p>近畿地方では、なぜ昔からの町並みを保存しようとしているのだろうか。<br/>☆近畿地方では、日本の古都としての歴史的な町並みを後世に残すとともに、その環境を保全するために、行政と住民が一体となって取り組んでいる。</p>                                                                                                | <p>知<br/>○</p>             | <p>知<br/>○</p> | <p>○環境を保全し、観光産業の育成を図る近畿地方の地域的特色を理解している。<br/>○町並み保全の理由を、日本の古都としての歴史的背景や観光資源として側面を踏まえ、「産業の振興と環境保全」の視点から考えたことを、図や文書を用いてまとめている。</p> <div data-bbox="938 712 1407 860" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>＜小単元の構成＞<br/> <div style="text-align: center;"> <b>歴史的町並みの保存</b><br/>             （環境の保全）   ↑   （産業の振興）<br/> <b>文化・伝統の継承</b>   <b>観光資源としての活用</b> </div> </p> </div>                                                                                                                                                                       |
| <p>関東地方（６）<br/>＜既習の考察の仕方を活用して＞<br/><b>学校所在地</b><br/>東京大都市圏、首都圏、人口・産業集積、「三環状九放射」道路、東京一極集中<br/>（<b>持続可能な社会づくり</b>）</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | <p>関東地方では、なぜ人口や産業が集中しているのだろうか。また、東京への一極集中をどうすればよいか。<br/>☆関東地方では、東京中心に交通・通信網が整備され、政治経済文化情報などの機能が集積している。東京一極集中については…していくことが大切である。<br/>※「地域の在り方」と関連付け、「東京に隣接する川崎市ではどのようなまちづくりをおこなっていくべきか」を考察・構想する学習とすることも考えられる。</p> | <p>知<br/>○<br/>技<br/>○</p> | <p>知<br/>○</p> | <p>○人口や産業が集中している関東地方の地域的特色を理解している。<br/>○生徒自身が収集した資料を基に、そこから読み取った情報を、文章とともに適切にグラフ化、図表化している。<br/>○人口や交通、産業施設などのハード面や、情報や管理機能などのソフト面の首都圏への一極集中の要因とともに、その一極集中によるメリットの側面とデメリットの側面を踏まえて「持続可能な地域づくり」の視点から考えたことを、図や文章を用いてまとめている。<br/>○これまでの日本の諸地域学習のまとめとなる関東地方の学習を経て、<u>地誌学習に粘り強く取り組むとともに、自己の学習を振り返り、地域の在り方の学習につなごうとしている。</u></p> <div data-bbox="938 1375 1433 1541" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>補足：本参考資料１においては、紙幅の都合もあり、「学習改善につながる評価」についてはその一例を示すにとどめている。実際の授業においては、これ以外にも学習過程における生徒の状況を適切に把握し、生徒自身の学習改善につながるような指導（評価）を行うことが期待される。</p> </div> |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>＜小単元の構成＞</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p><b>人口や産業の集中</b></p> <p>↑（持続可能な社会づくり）</p> <p><b>首都圏への産官学の集中</b>   <b>文化・情報の発信源</b></p> <p><b>放射状の交通網</b></p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>→ <b>東京一極集中の是非</b> → <b>川崎市のまちづくり</b></p> <p>（一極集中のよさや課題）   （隣接地のよさや課題）</p> </div> </div> <p style="text-align: right;">※「地域の在り方」</p> </div> |                                                                                                                                                                                                                  |                            |                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |

補足：この指導と評価の計画例では、「地域」と「考察の仕方」の組合せと順序について、はじめに、日本の北端にある北海道地方で「自然の開発」を、３番目に、日本の南端にある九州地方で「自然災害と共生」を鍵に、事象として捉えやすく習熟を考慮して「自然環境」を中核として取り上げた。同様に２番目に、日本の中央部にある中部地方で「産業の立地」、６番目に、近畿地方で「産業の振興と環境保全」を鍵に、「産業」を中核として取り上げた。４番目には、人口が偏在している中国・四国地方で「地域づくり」を鍵に、「人口や都市・村落」を中核とし、５番目に、東北地方で「広域交通網の役割」を鍵に、「交通や通信」を中核として取り上げた。最後に、学校所在地である関東地方で、既習の考察の仕方を活用し、「持続可能な社会づくり」を鍵に考察できるようにした。ここでは、さらに「地域の在り方」の単元につなげ、川崎市のまちづくりについて考察・構想する学習を想定した。



社会科（歴史的分野） 事例3

キーワード 大きな単元構成による指導と評価の計画

単元名

近世の日本

内容のまとめ

B「近世までの日本とアジア」

(3)「近世の日本」

## 1 単元の目標

- ・我が国の近世の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、時代の特徴を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- ・近世の歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特徴などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、思考したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- ・近世の歴史に関わる諸事象について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。

## 2 単元の評価規準

| 知識・技能                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 思考・判断・表現                                                                                                                                                                                                        | 主体的に学習に取り組む態度                                                                                                                                       |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヨーロッパ人来航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、近世社会の基礎がつけられたことを理解している。</li> <li>・江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、幕府と藩による支配が確立したことを理解している。</li> <li>・産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりなどを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解している。</li> <li>・社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解している。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。</li> <li>・近世の日本を大観して、時代の特徴を多面的・多角的に考察し、表現している。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・近世の日本について、見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。</li> <li>・学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見出そうとしている。</li> </ul> |

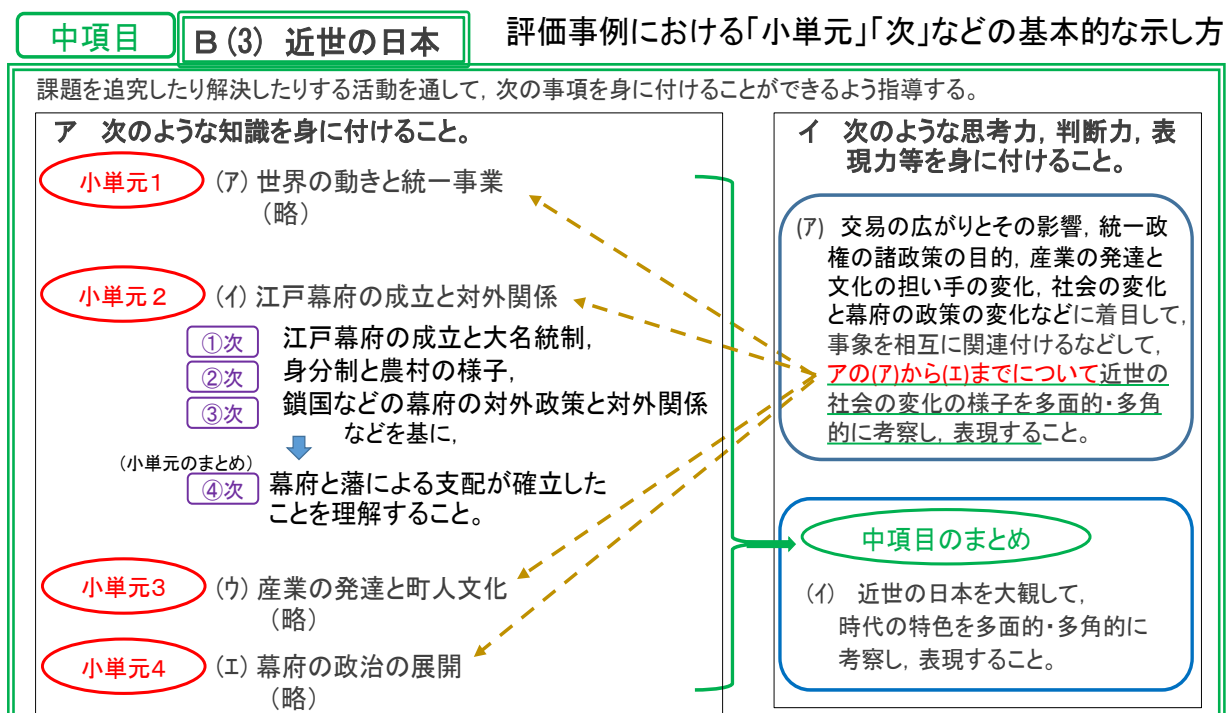
### 3 指導と評価の計画（28 時間）

ここでは、歴史的分野の学習の基本的な構造に即した評価基準の設定を行う際の手順を、大項目 B「(3)近世の日本」を事例に示すこととする。

第3編第1章でも示したとおり、歴史的分野の、特に大項目 B、C における中項目については、それぞれが一つの大きな単元としての学習のまとまりをもった構造となっている。そのため、評価規準についても中項目ごとに作成された「内容のまとまりごとの評価規準」を基本として、大きな単元としてのまとまりをもった構成と評価の計画を立てることが大切である。その際、学習指導要領の「内容の取扱い」などを参考に、例えば「内容のまとまりごとの評価規準」には具体的に示されていないが、全ての内容に関わらせて留意すると示されている「技能」に関わる学習活動や評価、また、「主体的に学習に取り組む態度」などを、より具体的に示すなど、授業内容に即した具体的な「単元の評価規準」に設定し直すことに留意する必要がある（前ページ参照）。

また、以下に示すように、歴史的分野の中項目は 20 時間を越えるような単元構成となることもあるため、その中に設定されている「小単元」などにおいて、適宜、生徒の学習状況を評価する場面を設定することも大切である。

なお、以下の事例では複数の「小単元」や、その下に複数の「次」を配置した。また、各「次」は、1 または複数の単位時間で構成されることを想定している。これらについて、学習指導要領の当該部分の記載と対照させると以下の図のようになる。



本事例は「中項目の導入」、学習指導要領上のア(ア)から(エ)に対応した 4 つの「小単元」、さらにイ(イ)に応じた「中項目のまとめ」によって構成される。それぞれの小単元については、例えばア(イ)に対応して構成される「小単元 2」の場合、学習指導要領に示された内容によって設定された①次から③次と、この「小単元 2」のまとめとなる④次によって構成されることとなる。

|        | 学習活動                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 評価の観点 |   |   | 評価規準等 |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|---|---|-------|
|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 知     | 思 | 態 |       |
| 中項目の導入 | <p>【ねらい】近世の社会の変化の様子について、見通しをもって学習に取り組もうとし、課題を主体的に追究、解決しようとしている。</p> <p>中項目全体を貫く問い「<u>あなたは、近世社会の基礎はどのように築かれ、どのように変容し、近代へとつながったと考えますか。</u></p> <p>教科書や資料集、小学校での学習経験やこれまでの学習を基に見通してみよう。」</p> <p>・教科書や資料集、これまでの学習や小学校での学習を踏まえて、中項目全体を貫く問いについて考察し、ワークシートに記入する</p> <p>●</p> <p>・小学校での学習などを基に、中項目全体を貫く問いに対する学習の見通しを立て、学習を通して明らかにしようとしている。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |       |   |   |       |
| 小単元1   | <p>【ねらい】交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、多面的・多角的に考察し、表現することを通して、近世社会の基礎が作られたことを理解する。</p> <p>小単元の学習課題「安土桃山時代の文化は、それ以前の文化とどのような違いがあるのだろうか、またその違いはどのような政治や社会の動きから生まれたのだろうか」</p> <p>① 1次の課題「ヨーロッパ人はなぜアジアに来たのだろうか」について、資料を活用して考察し、話し合った結果を発表する。</p> <p>② 2次の課題「織豊政権下の政策は社会をどのように変えようとしたのか」について、資料を活用して考察し、話し合った結果をワークシートに記入する。</p> <p>③ 3次の課題「武将や豪商たちの経済力と戦乱の気風は、南蛮貿易や朱印船貿易の影響とともに、日本の社会にどのような変化をもたらしたか」について、資料を活用して考察し、ワークシートに記入する。</p> <p>④ 各次でワークシートに記入した事柄を踏まえて、小単元の学習課題「安土桃山時代の文化は、それ以前の文化とどのような違いがあるのだろうか、またその違いはどのような政治や社会の動きから生まれたのだろうか」について考察し、ワークシートに記入する。</p> <p>○中項目全体を貫く問いとの関わりを確認する。</p> <p>●</p> <p>・資料から学習上の課題につながる情報を適切に読み取っている。</p> <p>・1次の課題について、16世紀に至る世界の結び付きなど交易の広がりとその影響などに着目して考察し、相互に結果を表現している。</p> <p>・資料から学習上の課題につながる情報を適切に読み取っている</p> <p>・2次の課題について、中世社会との比較に着目して考察し、相互に結果を表現している。</p> <p>・資料から学習上の課題につながる情報を適切に読み取っている。</p> <p>・3次の課題について、当時の政治や文化の動向に着目して考察し、結果を表現している。</p> <p>○</p> <p>・交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的などに着目して小単元の学習課題について考察し、結果を表現している。</p> <p>・「近世社会の基礎が作られたこと」について説明している。</p> <p>●</p> <p>・自己の学習について振り返り、調整しようとしている。</p> |       |   |   |       |
| 小単元2   | <p>【ねらい】統一政権の諸政策の目的などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現することを通して、幕府と藩による支配が確立したことを理解する。</p> <p>小単元の学習課題「なぜ、江戸幕府は長い間、政治の権力を保てたのだろうか。」</p> <p>①1次の課題「江戸幕府はどのように大名を統制したのだろうか」について、資料を活用して考察し、話し合った結果を発表する。</p> <p>●</p> <p>・資料から学習上の課題につながる情報を適切に読み取っている。</p> <p>・1次の課題について、中世の武家政治との違いや諸政策の目的に着目して考察し、相互に結果を表現している。</p> <p>●</p> <p>・資料から学習上の課題につながる情報を適切に読み取っている。</p> <p>②2次の課題「江戸時代の社会の仕組みの中で、農村や各地の特産品はどのような役</p> <p>●</p> <p>・資料から学習上の課題につながる情報を適切に読み取っている。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |       |   |   |       |

|                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |   |   |   |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                  | <p>割を担っていたのだろうか」について、資料を活用して考察し、考察し、ワークシートに記入する。</p> <p>③3次の課題「鎖国などの幕府の対外政策と対外関係がその後の日本にどのような影響を与えたのだろうか」について、資料を活用して考察し、話し合った結果をワークシートに記入する。</p> <p>④各次の学習内容を踏まえて、小単元の学習課題「なぜ、江戸幕府は長い間、政治の権力を保てたのだろうか。」について資料を活用して考察し、ワークシートに記入する。</p> <p>○中項目全体を貫く問いとの関わりを確認する。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | ● | ● | ● | <p>・2次の課題について、諸政策の目的、農村の生活や幕藩体制の経済基盤との関係などに着目して考察し、その結果を表現している。</p> <p>・資料から学習上の課題につながる情報を適切に読み取っている。</p> <p>・3次の課題について、貿易政策が与えた影響などに着目して考察し、相互に結果を表現している。</p> <p>・統一政権の諸政策の目的などに着目して、小単元の学習課題について考察し、結果を表現している。</p> <p>・「幕府と藩による支配が確立したこと」を説明している。</p> <p>・自己の学習について振り返り、調整しようとしている。</p>                                            |
| 小<br>単<br>元<br>3 | <p>【ねらい】産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現することを通して、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解する。</p> <p>小単元の学習課題 「なぜ町人が文化の担い手となり、その結果どのような都市や各地方の生活文化が生まれたのだろうか。」</p> <p>① 1次の課題「自分たちの生活する地域の産業や交通の発達には、この頃、どのような特徴がみられたのだろうか」について、身近な地域の事例などを取り上げ、資料を活用して考察し、ワークシートに記入する。</p> <p>② 2次の課題「江戸時代に、学問や芸術、教育への関心が高まり、ひろがっていったのはなぜだろうか」について、身近な地域の事例を取り上げ、資料を活用して話し合った結果をワークシートに記入する。</p> <p>③ 各次の学習内容を踏まえて、小単元の学習課題「なぜ町人が文化の担い手になり、その結果どのような都市や各地方の生活文化が生まれたのだろうか」について、資料を活用して考察し、ワークシートに記入する。</p> <p>○中項目全体を貫く問いとの関わりを確認する。</p> | ● | ● | ● | <p>・資料から学習上の課題につながる情報を適切に読み取っている。</p> <p>・1次の課題について、産業の発達などに着目して考察し、結果を表現している。</p> <p>・資料から学習上の課題につながる情報を適切に読み取っている。</p> <p>・2次の課題について、文化の担い手の変化などに着目して考察し、相互に結果を表現している。</p> <p>・産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化などに着目して、小単元の学習課題について考察し、結果を表現している。</p> <p>・「町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたこと」を説明している。</p> <p>・自己の学習について振り返り、調整しようとしている。</p> |
| 小<br>単<br>元<br>4 | <p>【ねらい】社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、貨幣経済が農村に広がる中で経済的な格差が生み出され、それを背景として百姓一揆がおこったことや、社会や経済の変化への対応としての諸改革の展開などを考察し、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解すること。</p> <p>小単元の学習課題 「なぜ、様々な取り組みをしたにもかかわらず、幕府の政治は行き詰まりをみせたのだろうか。」</p> <p>① 1次の課題「社会の変動や欧米諸国の接近が幕府の政策にどのような影響を与えたのだろうか」について、資料を活用して考察し、ワークシートに記入する。</p> <p>② 2次の課題「なぜ幕府の政治は改革が必要となったのだろうか」について、資料を活用して考察し、話し合い発表す</p>                                                                                                                                                                                                                 | ● | ● | ● | <p>・資料から学習上の課題につながる情報を適切に読み取っている。</p> <p>・1次の課題について、貨幣経済の広がりや都市や農村の変化などに着目して、資料を活用して考察し、結果を表現している。</p> <p>・資料から学習上の課題につながる情報を適切に読み取っている。</p> <p>・2次の課題について、社会の変化と幕府の政策の</p>                                                                                                                                                          |

|         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |   |   |   |   |                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|         | <p>る。</p> <p>③ 3次の課題「新しい学問・思想の動きは新しい時代を開く動きにどのような影響をもたらしたのだろうか」について、資料を活用して考察し、話し合い発表する。</p> <p>④ 各次の学習内容を踏まえて、小単元の学習課題「なぜ、様々な取り組みをしたにもかかわらず、幕府の政治は行き詰まりをみせたのだろうか」について、資料を活用して考察し、ワークシートに記入する。</p> <p>○中項目全体を貫く問いとの関わりを確認する。</p>                                                                                                                                                           | ● | ● | ○ | ○ | <p>変化との関わりなどに着目して考察し、相互に結果を表現している。</p> <p>・資料から学習上の課題につながる情報を適切に読み取っている。</p> <p>・新しい学問・思想の影響に着目して考察し、相互に結果を表現している。</p> <p>・社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、小単元の学習課題について考察し、その結果を表現している。</p> <p>・「幕府の政治が次第に行き詰まりを見せたこと」を説明している。</p> <p>●</p> <p>・自己の学習について振り返り、調整しようとしている。</p>        |
| 中項目のまとめ | <p>【ねらい】・近世の日本を大観して、政治の展開、産業の発達、社会の様子、文化の特色など他の時代との共通点や相違点に着目して、多面的・多角的に考察し、時代の特色を表現する。</p> <p>・次の中項目の学習への見通しを立てる。</p> <p>&lt;課題1&gt;</p> <p>「中項目(近世の日本)の学習を踏まえ、他の時代との共通点や相違点に着目して、近世社会の変化について自分の考えをまとめてみよう」</p> <p>&lt;課題2&gt;</p> <p>1)「作成したレポートと、単元のはじめに記した自分の『学習の見通し』を比べ、加わった点や新たに気付いた点など振り返ってみよう。」</p> <p>2)「近世の社会の変化の学習を振り返り、そのつながりに着目して、次の時代に大切になると思うキーワードをいくつかあげて、その理由を示してみよう」</p> |   |   |   |   |                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|         | <p>&lt;課題1&gt;について</p> <p>「中項目全体を貫く問い」を確認し、小単元4までの学習を振り返り、前の時代と比較するなどして、近世の社会の特徴的な変化を選び、ワークシートなどにまとめる。</p> <p>&lt;課題2&gt;について</p> <p>1) 当初の自己の学習の見通しと比較し、新たに加わった視点や理解が深まったと考えられる点についてワークシートなどにまとめる。</p> <p>2) 次の時代につながると考えられる事柄をあげて、その理由を説明する。</p>                                                                                                                                         |   | ○ | ○ |   | <p>・近世の社会の変化の様子について、政治の展開、産業の発達、社会の様子、文化の特色など他の時代との共通点や相違点に着目し、比較したり関連付けたりするなどして多面的・多角的に考察し獲得した知識を活用して学習を振り返る中で、時代の特色を文章や図などでまとめている。</p> <p>○</p> <p>・この中項目における自身の学習の経緯について振り返り、学習の方法や留意点について自身の学びを確認、調整しようとしているとともに、近世の社会の変化の様子から近代に向かう動きをあげるなど、次の学習へのつながりを見出そうとしている。</p> |

#### 4 観点別学習状況の評価の進め方

これまで示してきたように、全ての評価については、生徒の学習状況を確認する中で、教師が目標を達成できない可能性がある生徒に対して学習改善を図るように促したり、指導計画の修正を図ったりすることが大切である。本事例にある○印は、観点別学習状況の評価を記録に残す場面を示しており、これらは後に総括し、評定のための資料として用いることを想定している（「評定に用いる評価」）。・印については、評価を記録する必用は無いが、例えば、日常的な机間巡視や話し合いの様子、ワークシートの活用なども含め、学習の過程で生徒の状況を把握したり、確認したりすることを通して学習改善につなげる場面を示している（「学習改善につなげる評価」）。歴史的分野における学習の構造を踏まえた場合、この・印については、「評定に用いる評価」を行う際に、生徒の学習の経過を踏まえたり、単元の導入時とまとめにおける学習状況を比較して、長期にわたる生徒の成長や

変化を確認したりする際にも参考とするなど、適切な場面を選択しつつ活用することが期待される。

### （１）「知識・技能」

中学校社会科歴史的分野の「観点の趣旨」では「知識・技能」について、「各時代の特色を踏まえて理解している」と示している。従って、この「知識・技能」の評価の対象となるものは、個別の事象などの知識のみに留まるものではなく、それらを関連付けて社会の変化の様子を考察した結果としてもたらされるものであることについて改めて確認することが大切である。従って、「知識・技能」の評価については、次に示す「思考・判断・表現」の観点との関係を十分に踏まえて行うことが大切である。

■ 各「次」にある・印は、「資料から学習上の課題につながる情報を適切に読み取っている」と示されており、「技能」を確認する場面を表している。事例の通り、授業等では、資料から歴史に関わる情報を適切に読み取ることが小単元等における考察や理解につながることに十分に留意し、生徒の状況を把握しつつ、適切な助言を与えることが大切である。

■ 各小単元の最終「次」にある○印の場面は、例えば、「小単元１」において、『近世社会の基礎が作られた』ことについて説明している」と示されている通り、これは、小単元の学習課題について考察した結果を表現する際に、資料や既習の知識を活用しつつ「近世社会の基礎が作られた」という概念的な知識が獲得されていることが評価の対象となることを表している（後掲「学習の過程と評価の構造図」参照）。また、この○印の場面については「知識・技能」として、上記の「技能」についての状況を合わせて評価することにも留意する。

### （２）「思考・判断・表現」

「思考・判断・表現」の観点については、各小単元において「…に着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している」ことを評価する場面と、「中項目のまとめ」で行う「近世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している」を評価する場面から構成されている。

■ 各「次」にある・印は、小単元の学習課題について「歴史的な見方・考え方」を働かせて考察するという生徒の学習の過程を、グループでの話し合いや発表の場面、ワークシートの記述などから確認する場面を示したものである。

■ 各小単元の最終「次」（まとめとなる「次」）にある○印の場面は、「小単元の学習課題について考察し、その結果を表現している」と示されており、それまでの学習内容を踏まえて、小単元の学習課題について考察した結果を評価する。その際、上記（１）の「知識・技能」の評価との関係を踏まえ、生徒の学習の過程に着目して（後掲「学習の過程と評価の構造図」参照）、評価を行うことが大切である。

■ 「中項目のまとめ」にある○印は、これまでの学習で獲得した知識を単に並べることに留まらず、それらを組み合わせたり、傾向を見出したり、類型化したりして小単元１から４までの学習を振り返り、時代の特色を考察し、その結果を表現していることを評価する。

### （３）「主体的に学習に取り組む態度」

この観点については、上記二つの観点と比較して、長期の学習の中で育成されるものと考えられる



ため、毎回の授業や小単元に相当するような数時間の中でその成果を見取することは難しい。したがって、歴史的分野では、中項目ごとの内容のまとまりを基本として評価場面を設定している。

■ 「中項目の導入」にある・印は、小学校での学習を踏まえつつ、「中項目を貫く問い」に対して、学習の見通しをもって学習に取り組もうとしているかを確認するものである。

■ 小単元1から4の・印は、「自己の学習について振り返り、調整しようとしている」となっており、これは、学習内容、学習の方法や過程を振り返り、学びの調整力を働かせることを確認する場面であることを示している。これらについては、ワークシートなどから生徒の学習状況を確認し、適切な助言を与えることが考えられる。

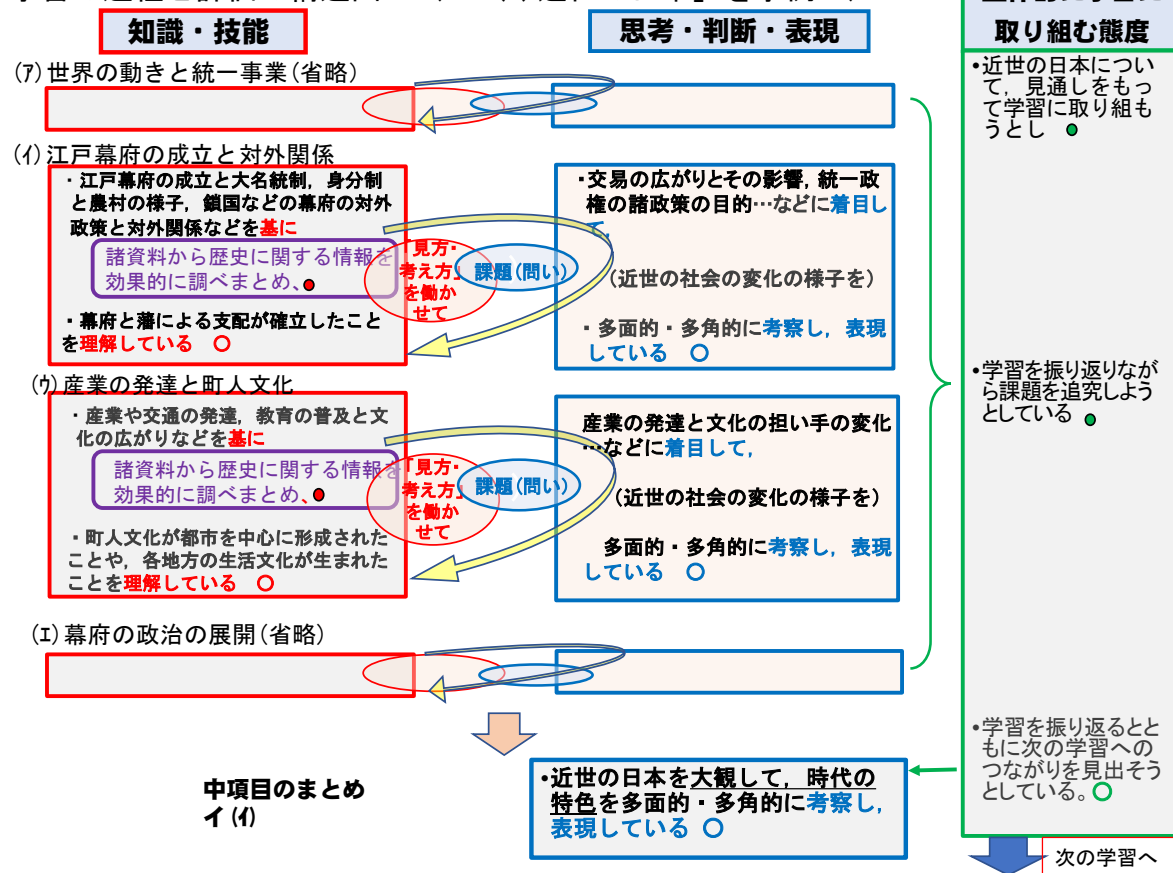
■ 「中項目のまとめ」にある○印は、1)生徒が中項目全体の学習の状況を振り返り、自己の学びを確認したり調整しようとしたり、2)次の学習へのつながりなどについて新たな見通しを立てようとしていたりすることなどについて、評価を行うことが考えられる。

1)については、例えば、「中項目の導入」における自らの見通しと、「中項目のまとめ」の〈課題1〉での考察を比較して加わった点や気付いた点などの記述から、当初の見通しが、自らの学習にどのように作用しながらまとめに至っているかなどについて、生徒が自己の学習を調整する姿を評価することが考えられる。

2)については、事例にあるように「次の時代につながると考えられる事柄をあげて、その理由を説明する」ことなどによって、次の学習へのつながりを見出そうとしているかを評価することが考えられる。その際、次の中項目C(1)の「近代の日本と世界」の導入における、生徒が「見通しを立てる」学習活動へつながることに留意する。

以下は、これまで示してきた「B(3)近世の日本」の学習の過程とその評価の在り方について、構造的に示した模式図である。図中の○印や・印は、上記の説明のそれらに対応している。このように中項目が一つの大きな単元としての構造を保持していることに留意し、それに沿った評価を行うことが重要である。

学習の過程と評価の構造図（「B(3) 近世の日本」を事例に）



中学校社会科（公民的分野） 事例 5  
キーワード 指導と評価の計画から評価の総括まで

単元名

私たちと政治

内容のまとめ

- C 私たちと政治  
(2) 民主政治と政治参加

### 1 単元の目標

対立と合意，効率と公正，個人の尊重と法の支配，民主主義などに着目して，課題を追究したり解決したりする活動を通して

- ・ 国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割，議会制民主主義の意義，多数決の原理とその運用の在り方，国民の権利を守り社会の秩序を維持するために，法に基づく公正な裁判の保障があること，地方自治の基本的な考え方について理解させる。
- ・ 民主政治の推進と，公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察，構想し，表現することができるようにする。
- ・ 民主政治と政治参加について，現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養う。

### 2 単元の評価規準

| 知識・技能                                                                                                                                                                                                                                                                                | 思考・判断・表現                                                                                                                                           | 主体的に学習に取り組む態度                                                                                         |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国会を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましや政党の役割を理解している。</li> <li>・ 議会制民主主義の意義，多数決の原理とその運用の在り方について理解している。</li> <li>・ 国民の権利を守り，社会の秩序を維持するために，法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解している。</li> <li>・ 地方自治の基本的な考え方について理解している。その際，地方公共団体の政治の仕組み，住民の権利や義務について理解している。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対立と合意，効率と公正，個人の尊重と法の支配，民主主義などに着目して，民主政治の推進と，公正な世論の形成や選挙など国民の政治参加との関連について多面的・多角的に考察，構想し，表現している。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 民主政治と政治参加について，現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。</li> </ul> |

### 3 指導と評価の計画の作成にあたって

単元という学習内容のまとめにおいて適切に学習評価を実施できるよう，指導と評価の計画に評価時期や評価方法を明らかにしておくことが重要であり，以下のとおり指導と評価の計画を作成する。

### (1) 「単元」の設定

指導計画については、学習指導要領に示されている「目標」及び「内容」に示された資質・能力を育成できるよう、生徒や学校、地域の実態を踏まえて作成する。その際、学習内容のまとまりを見出し、適切に単元を設定することが大切である。なお、公民的分野においては、学習指導要領の「A(1) 私たちが生きる現代社会と文化の特色」など、中項目を単元とすることが適切と考えられる。(事例5, 6とも、中項目を単元としている。)

### (2) 「単元の目標」の設定

単元における観点ごとの目標については、中項目を単元とする場合、それぞれの中項目に示されている「内容」を基に設定することができる。その際、「学びに向かう力、人間性等」については「内容」に示されていないので、公民的分野の「目標」を基に、「観点の趣旨」を参考にしながら設定することが考えられる。

### (3) 「単元の評価規準」の設定

単元における観点ごとの評価規準については、単元の目標と、「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方や評価の観点及びその趣旨等を踏まえて設定する。その際、「指導と評価の一体化」に留意する。すなわち、単元における観点ごとの評価規準は、単元の目標が達成できたかどうかを評価するものであるから、単元の目標から設定されなければならない。なお、公民的分野の「内容のまとまりごとの評価規準」は、学習指導要領の「内容」(「主体的に学習に取り組む態度」については公民的分野の「目標」)を基に設定されている。そのため、中項目を単元とする場合には、「内容のまとまりごとの評価規準」を単元の評価規準とすることもできる。

### (4) 「単元の指導計画及び評価計画」の作成

#### ① 「単元の指導計画」の作成

単元の指導計画は、単元の目標に到達できるように作成する。今回の学習指導要領の改訂では「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められ、「問い」の重要性が指摘されており、本事例でも「単元を貫く問い」、「各次の問い」を例示している。

生徒が、「主体的、対話的で深い学び」に向かう適切な「問い」を設定するためには、計画を作成する時点で、生徒の、それまでの学習状況等を的確に把握した上で、生徒の発言や活動をよく予測し、必要な助言、支援を準備しておくことが大切である。特に、深い学びを実現するためには、問いを追究する過程で、「深い学びの鍵」と言われる、「社会的な見方・考え方」を働かせる「問い」を設定することが大切である。

また、他教科等との関連、専門家や関係諸機関との連携・協働について計画に明示しておくことは、「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善だけでなく、「社会に開かれた教育課程」の実現にもつながる。

#### ② 「単元の評価計画」の作成

学習評価の役割は、生徒に学習状況の診断を伝え、改善の方向性を示すと共に、教師の指導改善に役立てることである。また、学習評価は、妥当性や信頼性が確保されていることが重要である一方、データの集積に授業時間を必要以上に費やしたり、授業後に、教師に過重な負担を強いたりするものであってはならない。評価計画の作成に当たっては、これらのことに十分に留意しなければならない。

そこで、第一に、評価計画には「評定に用いる評価」と「学習改善につなげる評価」の両者をあらかじめ位置付ける。単元の学習過程において、各観点の評価を一度は生徒にフィードバックし、必要があれば教師が指導、支援するなどし、生徒が学習状況の改善を図る機会をもった上で、改めて評価するという、形成的評価の考え方を参考にするなどして、評価計画を作成する。すなわち、単元の観点別評価のための「評定に用いる評価」のみ実施するのではなく、日々の授業で一人一人の学習状況を見取り、生徒の成長を促し、資質・能力の確かな育成を図る「学習改善につなげる評価」を実施することが大切である。

第二に、妥当性や信頼性が確保された評価とするため、単元の評価計画に、次のことを示すようにする。

- ・ 評価規準等・・・「単元の評価規準」を学習活動に即して書き換える必要がある。また、「おおむね満足できる状況(B)」、「十分に満足できる状況(A)」、「努力を要する状況(C)」と評価される生徒への支援の例」を具体的に設定しておく。
- ・ 評価の時期・・・各観点の特徴にしたがって適切に位置付ける。
- ・ 評価方法・・・妥当性や信頼性が確保された評価になるように工夫する。

第三に、生徒一人一人の観点別学習状況を記録する機会を精選することにより、教師が一層指導に傾注できるように工夫する。

#### 4 指導と評価の計画（22時間）

##### （1）単元の指導計画

単元の導入「社会を担う主権者となるためには」・・・・・・・・・・（1時間）  
 第一次「社会の課題を解決するためには」・・・・・・・・・・（4時間）  
 第二次「社会の課題に国全体で取り組むためには～食品ロスを例に～」・・・・・・・・（6時間）  
 第三次「公正な裁判の保障により人々の人権を守るためには」・・・・・・・・・・（4時間）  
 第四次「社会の課題を私たちの力で解決していくためには」・・・・・・・・・・（6時間）  
 単元のまとめ「主権者として社会に参画するためには」・・・・・・・・・・（1時間）

##### （2）単元における問いの構造

【単元全体を貫く問い】※単元の導入及び単元のまとめ

社会をよりよいものにするために、最終的に決定する権力をもっている私たちはどのように政治に関わるのがよいだろうか。

【第一次の問い】

社会に見られる課題を解決するために私たちはどのように情報を入手し、判断して、物事を決めるのがよいだろうか

【第二次の問い】

社会の課題となっている食品ロスを解決するために、主権者である私たちはどのように国の政治に関わっていくのがよいだろうか。

【第三次の問い】

裁判において公正に判断するうえで大切なことはどのようなことだろうか。

【第四次の問い】

よりよい〇〇市にするために、〇〇市議会議員模擬選挙で、誰に投票したらよいだろうか。

(3) 指導と評価の展開例

○ 「評価に用いる評価」 ・ 「学習改善につなげる評価」

| 次                     | ねらい・学習活動等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 評価の観点 |   |   | 評価方法                                                                                                             |
|-----------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|---|---|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 知     | 思 | 態 | 評価規準，(評価方法)                                                                                                      |
| 単<br>元<br>の<br>導<br>入 | <p>【ねらい】単元を見通すテーマ(＝単元を貫く問い)「社会をよりよいものにするために、最終的に決定する権力をもっている私たちはどのように政治に関わるのがよいだろうか。」について、疑問を出し合うなど対話的な活動を通して、問いに対する答えを予想したり、解決すべき疑問を挙げたりするなど、学習の見通しを立てる。</p> <p>◇(学習活動の概要)グループでの対話的な学習で、単元を貫くテーマに疑問を挙げながら、学習課題を設定するとともに、解決への見通しを立てる。</p> <p>問 「社会をよりよいものにするために、最終的に決定する権力をもっている私たちはどのように政治に関わるのがよいだろうか。」について疑問はないだろうか。</p> <p>〔予想される疑問〕</p> <p>「よりよい社会とはどのような社会か？」</p> <p>「様々な考えがある中で、どのようにして社会全体で取り組むのか？」等</p> <p>留 (指導上の留意点)</p> <p>・大項目C(1)の「人間の尊重についての考え方」や「日本国憲法の基本的原則」の学習や、小学校社会科における我が国の政治に関する学習を活用する。</p> |       |   |   | <p>・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目して、学習課題を見出し、問いに対する答えを予想したり、解決すべき疑問を挙げたりするなど、解決への見通しを立てているか、確認する。(ワークシート)</p> |
| 第<br>一<br>次           | <p>【第一次のねらい】選挙や政党など、様々な人の意見をまとめ、課題を解決するためにどのような仕組みが整えられているかを理解し、民主政治の推進には公正な世論の形成が必要なことについて考察する。</p> <p>【第一次の問い】</p> <p>社会に見られる課題を解決するために私たちはどのように情報を入手し、判断して、物事を決めるのがよいだろうか。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |       |   |   |                                                                                                                  |
| 4<br>時<br>間           | <p>◇身近で具体的な事例から、多数決の運用の在り方について考察する活動を通して多数決の原理とその運用の在り方について理解する。</p> <p>問 様々な立場の人の意見をどのようにまとめていったらよいだろうか。</p> <p>◇対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民主主義などに着目し、選挙に関する資料などを読</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | ・     |   |   | <p>・選挙に参加することの重要性について理解を深めているかどうか、確認する。(ワークシート)</p> <p>・対立と合意、効率と公正、個人の尊重と法の支配、民</p>                             |

|     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |   |  |                                                                                                                                          |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|--|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     | <p>み取り，選挙の意義や現状について考察し，表現する。</p> <p><b>問</b> なぜ選挙が行われるのか。</p> <p>◇政党が議会制民主主義の運営上不可欠であることを歴史的分野の学習を踏まえ，理解するとともに，政党の主義，主張をインターネットで検索する。</p> <p><b>問</b> 政党はどのような役割を果たしているのか。</p> <p>◇資料を読み取り，民主政治において，表現の自由と本次で学習したことをもとに情報を批判的に読み取るなど，メディアリテラシーが重要であることを理解するとともに，議論することを通して，国民の政治参加の意義について考察する。</p> <p><b>問</b> 主権者として自分の考えを政治に反映させるためにはどのような方法があり，どのようなことに留意すべきか。</p> | ○ |  | <p>主主義などに着目して，民主政治の推進と選挙との関連について多面的・多角的に考察し，分かりやすく表現しているか，確認する。（ワークシート）</p> <p>○議会制民主主義の意義や，多数決の原理とその運用の在り方について理解しているか，評価する。（ワークシート）</p> |
| 第二次 | <p><b>【第二次のねらい】</b>「食品ロス削減推進法」の成立やその取組を例に，主権者である国民が直接選んだ代表者で構成される国会や議院内閣制で成立する内閣の仕組みと役割を理解し，私たちがどのように政治に参加していくべきか，対話的な活動を通して深めたことを基に考察する。</p> <p><b>【第二次の問い】</b><br/>社会の課題となっている食品ロスを解決するために，主権者である私たちはどのように国の政治に関わっていくのがよいだろうか。</p>                                                                                                                                  |   |  |                                                                                                                                          |
| 6時間 | <p>◇「食品ロス削減推進法」の成立やその取組を中心に食品ロスへの取組について調べ，国会と内閣が社会をよりよくすることについて理解する。</p> <p><b>問</b> 食品ロスを改善する動きは，どのようにして始まったのだろうか。</p> <p><b>留</b> 消費に関する学習や貧困の解消に関する学習につなげるようにする。</p> <p>◇国会の役割とその意味を考察し，理解する。</p> <p><b>問</b> 国会はどのような役割を果たしているのか，またどのような仕組みで運営されているのか。</p>                                                                                                        | ・ |  | <p>・食品ロスへの取組について，統計，新聞，インターネットなどから情報を収集できているか，確認する。（ワークシート）</p> <p>・国会の役割と仕組みについて理解しているかどうか，確認する。（ワークシート）</p>                            |



|     |                                                                                                                                                                                                                                                                  |   |  |                                                                                                                                                                                                        |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|--|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     | <p>◇内閣の役割とその意味を考察し、理解する。</p> <p>問 内閣はどのような役割を果たしているのか、またどのような仕組みで運営されているのか。</p> <p>◇三権の役割について憲法などを基に調べ、権力分立制の意味について理解する。</p> <p>問 なぜ権力分立制がとられているのか。</p> <p>◇本次について単元の見通しに立ち返って振り返る。</p> <p>問 私たちが社会の課題を解決するために、主権者として国の政治にどのように関わることができるだろうか。法律ができれば大丈夫だろうか。</p> | ・ |  | ・内閣の役割と仕組みについて理解しているかどうか、確認する。(ワークシート)                                                                                                                                                                 |
|     |                                                                                                                                                                                                                                                                  | ・ |  | ・権力分立制の意味について理解しているかどうか、確認する。(ワークシート)                                                                                                                                                                  |
|     |                                                                                                                                                                                                                                                                  | ○ |  | <p>・「単元の導入」に立てた見通しを踏まえて、学習を振り返り、次の学習や生活に生かすことを見出しているかどうか、確認する。(ワークシート)</p> <p>・我が国の政治や政治参加について関心を持って問い続けることを見出しているかどうか、確認する。(ワークシート)</p> <p>○国会、内閣を中心とする我が国の民主政治の仕組みのあらましを理解しているかどうか、評価する。(ワークシート)</p> |
| 第三次 | <p>【ねらい】模擬裁判の体験を基に、裁判で法などを根拠に公正に判断することの重要性について理解を深め、法の支配の重要性や司法への参加の意義について考察する。</p>                                                                                                                                                                              |   |  |                                                                                                                                                                                                        |
|     | <p>【第三次の問い】</p> <p>裁判において公正に判断するうえで大切なことはどのようなことだろうか。</p>                                                                                                                                                                                                        |   |  |                                                                                                                                                                                                        |
| 4時間 | <p>◇模擬裁判の体験を通して、司法や裁判に関する追究の意欲を高める。</p> <p>問 どのように有罪／無罪を決定し、量刑を決めたらよいだろうか。(模擬裁判にチャレンジしよう)</p> <p>留・事実を基に、多面的・多角的に考察し、判断できるよう指導する。</p> <p>・法教育推進協議会「法やルールって、なぜ必要なんだろう？」など関係諸機関が作成する教材の活用や、外部人材の活用等、専門家や関係諸機関との連携、協働を図る。</p>                                       |   |  |                                                                                                                                                                                                        |

|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |   |  |                                                                                                                                |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|--|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|             | <p>◇（模擬裁判での気付きから）公正，個人の尊重と法の支配などに着目し，司法の意味を考察し，公正な司法の重要性について理解する。</p> <p>問 裁判の仕組みは，どのように私たちの人権を保障しているのだろうか。</p> <p>◇裁判員制度について資料を読み取り，考察し，その意義を理解する。</p> <p>問 私たちが裁判員として裁判に参加することにはどのような意味があるのだろうか。</p>                                                                                                                                                         | ・ |  | <p>・三審制の意味について理解しているかどうか，確認する。（ワークシート）</p>                                                                                     |
|             |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | ○ |  | <p>○国民の権利を守り，社会の秩序を維持するために，法に基づく公正な裁判の保障があることについて理解しているかどうか，評価する。（ワークシート）</p>                                                  |
| 第<br>四<br>次 | <p>【ねらい】 地方自治についての理解を深めるとともに，私たちの住む地域をよりよい市にしてい くために，どのように地方自治に関わり課題を解決していくべきか，自助・共助・公助の在り方について対話的な活動を通して深めたことを基に考察，構想する。</p>                                                                                                                                                                                                                                  |   |  |                                                                                                                                |
|             | <p>【第四次の問い】<br/>よりよい〇〇市にするために，〇〇市議会議員模擬選挙で，誰に投票したらよいだろうか。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |   |  |                                                                                                                                |
|             | <p>◇地方自治の意義について，身近な事例を基に考察し，理解する。</p> <p>6 問 地方自治は私たちの生活にどのような影響をもたらすだろうか。</p> <p>時 ◇地方公共団体や地方自治の仕組みについて国の仕組みと比較しながら考察し，理解する。</p> <p>間 問 地方公共団体はどのようにして住民の願いを実現しているのだろうか。</p> <p>留 上の二つの問いについては，国の政治の仕組みと比較することにより，地方自治の特色を明らかにするように指導する。</p> <p>◇模擬選挙の資料（立候補者の政策）を読み取り，地元の地方公共団体の財政などについて調べ，考察し，選択・判断する。（模擬投票を行う）</p> <p>問 あなたの願いを実現させるために，誰に投票したらよいだろうか。</p> | ・ |  | <p>・直接請求権の意味について理解しているかどうか，確認する。（ワークシート）</p> <p>・対立と合意，効率と公正，個人の尊重と法の支配，民主主義などに着目して，限られた財源の中で，政策の優先順位を考察，構想し，候補者を選び，判断に至った</p> |

|               |                                                                                                                                                                                                                                                                         |   |  |                                                                                                                                                                                                                          |
|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|--|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|               |                                                                                                                                                                                                                                                                         | ○ |  | <p>自らの考えを分かりやすく表現しているかどうか，確認する。(ワークシート)</p> <p>○地方公共団体の政治の仕組み，住民の権利や義務など，地方自治の基本的な考え方について理解しているかどうか，評価する。(ワークシート)</p>                                                                                                    |
| 単元のまとめ<br>1時間 | <p>【ねらい】主権者として自分自身が社会にどのように参画していくか，単元全体の学習を振り返りながら具体的な現代的な諸課題を挙げて，それを解決するための方策について考察・構想する。また，新たな問いをつくり主体的に学び続けようとする態度を育成する。</p>                                                                                                                                         |   |  |                                                                                                                                                                                                                          |
|               | <p>【単元全体を貫く問い】</p> <p>社会をよりよいものにするために，最終的に決定する権力をもっている私たちはどのように政治に関わるのがよいだろうか。</p>                                                                                                                                                                                      |   |  |                                                                                                                                                                                                                          |
|               | <p>◇前時に実施した模擬選挙の投票と結果に対する考察を基に，社会をよりよいものにするために主権者として政治にどのように関わるかを構想する。</p> <p>問 【単元全体を貫く問い】社会をよりよいものにするために，最終的に決定する権力をもっている私たちはどのように政治に関わるのがよいのでしょうか。</p> <p>留・考察にあたっては社会参画を視野に，合意形成に向けて自らの行動と結び付けられるよう指導する。</p> <p>・単元を貫く問いに対し自らの考えをまとめ，主権者として国民の政治参加の在り方について構想する。</p> | ○ |  | <p>○民主主義などに着目して，主権者として政治参加の在り方について多面的・多角的に考察，構想し，表現しているかどうか，評価する。(ワークシート)</p> <p>○</p> <p>○単元のはじめに立てた見通しを踏まえて，学習を振り返り，次の学習や生活に生かすことを見出しているか，評価する。(ワークシート)</p> <p>○我が国の政治や政治参加について関心を持って問い続けることを見出しているか，評価する。(ワークシート)</p> |

## 5 観点別学習状況の評価の進め方

### (1) 観点別学習状況の評価

#### ① 知識・技能

「知識・技能」については、民主政治と政治参加に関する理解について評価する。

第一～四次それぞれで「知識・技能」の「評定に用いる評価」を行うように設定しており、各次の途中では、学習した内容を正しく理解しているかを見取り、「学習改善につなげる評価」を行う。その際、正しく理解していない場合は、次の授業以降に再度説明するなど、「おおむね満足できる状況」になるよう、改善を促す手立てが必要となる。このような指導、助言をした上で、次末に「評定に用いる評価」を行う。本事例では、ワークシートへの論述を分析し、評価する。なお、「評定に用いる評価」についても、生徒の学習改善につなげたり、教師の指導改善につなげたりしていくことは言うまでもない。

また、第一次や第四次における情報を収集し、読み取り、まとめる場面では、本単元の学習までに身に付けた技能が活用されているか、「学習改善につなげる評価」を行い、十分でない場合は必要な指導や助言を行う。

#### ② 思考・判断・表現

「思考・判断・表現」については、「現代社会の見方・考え方」を働かせ、習得した知識及び技能を活用しながら考察、構想し、表現できているかを評価する。

第一～四次において「学習改善につなげる評価」を行い、生徒に必要な指導や助言をした上で、「単元のまとめ」で「評定に用いる評価」を行う。この観点の評価で留意すべきことは、考察や構想にあたって、「対立と合意」、「効率と公正」、「個人の尊重と法の支配」、「民主主義」などに着目しているかどうかを確認することである。着目していない場合には、必要に応じて、これらの概念を復習したり、考察する際に着目できるよう必要な指導や助言を行ったりした上で、「単元のまとめ」で「評定に用いる評価」を行う。

#### ③ 主体的に学習に取り組む態度

「主体的に学習に取り組む態度」については、民主政治と政治参加に関する学習に対して、自己調整しようとしながら粘り強く取り組み、民主政治や政治参加の重要性から、主体的に社会に関わろうとする態度について評価する。主体的に社会に関わろうとする態度については、単元の学習後も、関心をもって自ら追究し続けたい、解決、改善を図っていきたい問いをもつことができたかどうかによって評価する。

具体的には、「単元の導入」で、単元の学習の見通しをもたせる。第二次で、「学習改善につなげる評価」を行い、必要な指導や助言を行った上で、「単元のまとめ」でのワークシートへの記述を基に「評定に用いる評価」を行う。自己調整しようとしながら粘り強く取り組むことについての状況が「努力を要する」である場合、「単元の導入」に立てた見通しに立ち返って振り返ることを助言するとよい。

## (2) 観点ごとの評価の総括

観点ごとの評価の総括については、「評定に用いる評価」を基に、下表のように行うことが考えられる。

| 氏名   | 観点\次  | 単元の導入 | 第二次  | 第三次  | 第四次  | 第五次  | 単元のまとめ | 総括的评价 |
|------|-------|-------|------|------|------|------|--------|-------|
| 国研太郎 | 知・技   | —     | ○25% | ○25% | ○25% | ○25% | —      | A～C   |
|      | 思・判・表 | —     | —    | —    | —    | —    | ○100%  | A～C   |
|      | 主体的態度 | —     | —    | —    | —    | —    | ○100%  | A～C   |